



源氏物語詞要

特別
~12
4889



源氏詞要

植物

動物

雜物

植物

動物

雜物

昭和九年八月七日
村井順氏贈寄

59-6602

植物

動物

雜物

とほ隠身ついでてうはやくきけりとおん夕々や中侍の
君のちんくあさてううあわしきうきよまちゃんま
ゆらうまやけよと小あらしよむつしけるわたり
のこのそかのそあやしきうらりりあひてむの
うらぬのつらあまはひつらうらと口おの
花の降りやつかたうてまうけのけりこのあ
りもころ門よきてゆらきよまやゆらやうたうら
まのあすしきのひんをほちりてうらうらわ
あしけるあまてうらあゆむほきぬのいし
しきよとこけよまてまうきよま枝しあさけなけ
るあはたてとてうきまぬ門あもて 惟光の歌
のうていしきうらしてうてまうしきよ



夕日

惟光よあまきりてあつは庭はらんすねまて
あしきうらうらうきよしきうらうらうら
たりしきよまひしきよ

あまきりにそまきよしきよはなれまきよ
あだうらうらうらあまきよまきよあて

あまきりしきよまきよあまきよあまきよ
あまきよまきよまきよまきよまきよまきよ

あまきりしきよまきよまきよまきよまきよ
あまきりしきよまきよまきよまきよまきよ

夕日

あまきりしきよまきよまきよまきよまきよ
あまきりしきよまきよまきよまきよまきよ
あまきりしきよまきよまきよまきよまきよ
あまきりしきよまきよまきよまきよまきよ

日 井君してあふらうらふふらうらにあらはさうらや
ついでとらふ

ほのふもし物なる萩とむきとらふ高のこもをけり
たふらうらおきまつけてあひしてこのまじり

日 妙物のあらさやうらふふらうらうらうらうらうら
おほしおほしおほしおほしおほしおほしおほし

こころわてこころに

日 月のみみす見よかけても萩のあらうらおにむきけり
おほしおほしおほしおほしおほしおほしおほし

あらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
おほしおほしおほしおほしおほしおほしおほし

日 武うけつらうらうのふもまやうらうらうらうら
うらうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

本をいけうらうらうらうらうらうらうらうらうら
おほしおほしおほしおほしおほしおほしおほし

日 引しうらうらうらうらうらうらうらうらうら
おほしおほしおほしおほしおほしおほしおほし

おほしおほしおほしおほしおほしおほしおほし
おほしおほしおほしおほしおほしおほしおほし

日 けようらうらうらうらうらうらうらうらうら
おほしおほしおほしおほしおほしおほしおほし

おほしおほしおほしおほしおほしおほしおほし
おほしおほしおほしおほしおほしおほしおほし

神皇のうらうらうらうらうらうらうらうらうら
おほしおほしおほしおほしおほしおほしおほし

ゆくてはほしきもまゆきりよもたゆひあふきり
ゆりうらさせほくはよきまきんうきなくぬんは
ちあふつとたにきくくつけはくさあはえ
うひまぐなんまて

風ぞたの人の梅ちあふはくさあはえのこま
入のりもいしまあふまうひまきんは例のら
こくして

いける田籍のいあきくきまはつて
おきくあやふきくおまきくおまきくあは
ゆきくたけきくわきくゆきくあはき
こも
きんくあきくあきくあきくあきくあきく

いあきくあきくあきくあきくあきく

いあきくあきくあきくあきくあきく
いあきくあきくあきくあきくあきく
いあきくあきくあきくあきくあきく

いあきくあきくあきくあきくあきく
いあきくあきくあきくあきくあきく
いあきくあきくあきくあきくあきく

いあきくあきくあきくあきくあきく
いあきくあきくあきくあきくあきく
いあきくあきくあきくあきくあきく

こやうにうけとておぼれみそてふくよかにういあつ
 けよあうりきととりのたうくみは秘さうたわ
 いは萩の葉とさうあつ風のさうりあはれりも
 あはれしあけのさうたうりさうたうりあはれに
 てさうたうりさうたうりさうたうりあはれに
 とさうたうりさうたうりさうたうりあはれに

おんてんまきうりさうたうりさうたうりあはれに
 吉凡さうたうりさうたうりさうたうりあはれに

おんてんまきうりさうたうりさうたうりあはれに
 吉凡さうたうりさうたうりさうたうりあはれに

おんてんまきうりさうたうりさうたうりあはれに
 吉凡さうたうりさうたうりさうたうりあはれに

ららあさなまきうり

からうりさうたうりさうたうりあはれに
 あはれにまきうりさうたうりさうたうりあはれに
 あはれにまきうりさうたうりさうたうりあはれに

あはれにまきうりさうたうりさうたうりあはれに
 あはれにまきうりさうたうりさうたうりあはれに

あはれにまきうりさうたうりさうたうりあはれに
 あはれにまきうりさうたうりさうたうりあはれに

未摘

梅

紅梅

紅

深出木

秋を海しとせむすまはつとひろけなうしに
 もあひすまひまをそはあしうれ
 なるしき色もなしにゆきふらつむ花を神よ
 さらしき花をみしうもなしかきけしあし
 風の小うらたはゆきしりしあすもわたり
 梅のつらさあし中みを梅のきしりさ
 ほろろとさうらうらうらとさてし申はしかりの
 ことのあけいとく咲花をそあけさるは
 紅のそあそあをうら梅梅の三枝さるしは
 深出木の申すまはつとひろけなうしに
 きはあしあけし申すうらうらといふはしきあし
 なるしきひては花のうらけの深出木なり

紅

紅

梅

未摘

紅

菊

木

秋を海しとせむすまはつとひろけなうしに
 もあひすまひまをそはあしうれ
 なるしき色もなしにゆきふらつむ花を神よ
 さらしき花をみしうもなしかきけしあし
 風の小うらたはゆきしりしあすもわたり
 梅のつらさあし中みを梅のきしりさ
 ほろろとさうらうらうらとさてし申はしかりの
 ことのあけいとく咲花をそあけさるは
 紅のそあそあをうら梅梅の三枝さるしは
 深出木の申すまはつとひろけなうしに
 きはあしあけし申すうらうらといふはしきあし
 なるしきひては花のうらけの深出木なり

木五

山の木の葉よりつれぬき人すこし物のみ
海に舟をゆけり

木五

日 樹の人のあはれのちかきまをくあをみわたれ申よとこ
なれ花やうよ咲あふるとねを結て命のぬのま
のそとにうき花の事一たほり人

木五

よそ人ほくみ花のつとあをみぬてあけまはらなそり
をねよさるる花をよひあししとくひあさよした物け
まけりありさりぬきよひりあやありらん
きよせてうらりそりけ花あふとまきこゆり
と物長んやを物ゆきよあほ一あはれあをま
神あはれあはれゆりこくあをみぬてあはれや
こくありあふりさりけ花あふとまきこゆり

木五

あふりさりけ花

日 母君にありつ花のあはれさるこころしとこひ

あふりさりけ花

あふりさりけ花

木五

あふりさりけ花

木五

あふりさりけ花

木五

あふりさりけ花

陸
杜
木陸

うきけいんやうめんらまき約ちくわは杜のたれ
申宮のあはれは海づけて喜宮の女師のあまうらに
あまの娘もんとあやうらやあまをらんうら
うらわらうらうらうら

心

あまのうらうらうらうらうらうらうらうら
あまのうらうらうらうらうらうらうらうら
あまのうらうらうらうらうらうらうらうら
あまのうらうらうらうらうらうらうらうら
あまのうらうらうらうらうらうらうらうら

三ノ系

あまのうらうらうらうらうらうらうらうら
あまのうらうらうらうらうらうらうらうら
あまのうらうらうらうらうらうらうらうら
あまのうらうらうらうらうらうらうらうら
あまのうらうらうらうらうらうらうらうら

小條

あまのうらうらうらうらうらうらうらうら
あまのうらうらうらうらうらうらうらうら
あまのうらうらうらうらうらうらうらうら
あまのうらうらうらうらうらうらうらうら
あまのうらうらうらうらうらうらうらうら

三ノ系

あまのうらうらうらうらうらうらうらうら
あまのうらうらうらうらうらうらうらうら
あまのうらうらうらうらうらうらうらうら
あまのうらうらうらうらうらうらうらうら
あまのうらうらうらうらうらうらうらうら

友

あまのうらうらうらうらうらうらうらうら
あまのうらうらうらうらうらうらうらうら
あまのうらうらうらうらうらうらうらうら
あまのうらうらうらうらうらうらうらうら
あまのうらうらうらうらうらうらうらうら

友

あまのうらうらうらうらうらうらうらうら
あまのうらうらうらうらうらうらうらうら
あまのうらうらうらうらうらうらうらうら
あまのうらうらうらうらうらうらうらうら
あまのうらうらうらうらうらうらうらうら

あはれ あはれ あはれ
 女納言のうねりかきもあはれとてまづ
 はうらやまのあはれをいふもあはれゆき末葉の
 こきふくは
 ちひろくもいふもあはれとてあはれとてあはれ
 とりのよもあはれとてあはれとてあはれ
 わくわくとてあはれとてあはれとてあはれ
あはれ あはれ あはれ
 けいあはれあはれのつとてあはれとて
 はらまのあはれとてあはれとてあはれ
 えあはれあはれのあはれとてあはれとてあはれ
 のすけあはれのあはれとてあはれとてあはれ
 ちひろくもいふもあはれとてあはれとてあはれ
 かきもあはれのあはれとてあはれとてあはれ

あはれ
 女納言のうねりかきもあはれとてまづ
 はうらやまのあはれをいふもあはれゆき末葉の
 こきふくは
 ちひろくもいふもあはれとてあはれとてあはれ
 とりのよもあはれとてあはれとてあはれ
 わくわくとてあはれとてあはれとてあはれ
あはれ あはれ あはれ
 けいあはれあはれのつとてあはれとて
 はらまのあはれとてあはれとてあはれ
 えあはれあはれのあはれとてあはれとてあはれ
 のすけあはれのあはれとてあはれとてあはれ
 ちひろくもいふもあはれとてあはれとてあはれ
 かきもあはれのあはれとてあはれとてあはれ

松のこゝろをわたりてとわたりて

松のこゝろをわたりてとわたりて
松のこゝろをわたりてとわたりて

松のこゝろをわたりてとわたりて

松のこゝろをわたりてとわたりて

松のこゝろをわたりてとわたりて

松のこゝろをわたりてとわたりて

松のこゝろをわたりてとわたりて

松のこゝろをわたりてとわたりて

松のこゝろをわたりてとわたりて

松のこゝろをわたりてとわたりて

松のこゝろをわたりてとわたりて

松

松のこゝろをわたりて

松のこゝろをわたりてとわたりて

松のこゝろをわたりてとわたりて

松のこゝろをわたりてとわたりて

松のこゝろをわたりてとわたりて

松のこゝろをわたりてとわたりて

松のこゝろをわたりてとわたりて

松のこゝろをわたりてとわたりて

松のこゝろをわたりてとわたりて

松のこゝろをわたりてとわたりて

松のこゝろをわたりてとわたりて

ちゆめいゝはるこゝ後ひいゆゝとて
 ぬくちやき^い
卯しあけこの月^いはけは神のあつた
 まらあそてかしくさあ^いしてさあ^いのさあ^い
 うさあ^い紅葉あ^いゆら^いさあ^いさあ^い
 けさあ^いこのさあ^いはけ^いはさあ^い
 ち^いはさあ^いたのさあ^いけ^いあ^い

卯はさあ^いもあ^いあ^いあ^いあ^いあ^い
 うん^いさあ^いあ^いあ^いあ^いあ^い
 ち^いさあ^いあ^いあ^いあ^いあ^い
 てさあ^いあ^いあ^いあ^いあ^い
卯さあ^いあ^いあ^いあ^いあ^い

進みあんなりうてはるんきをせはるな^いあ^い
 けよ^いさあ^いあ^いあ^いあ^い
 卯のさあ^いあ^いあ^いあ^い

卯けさあ^いあ^いあ^いあ^いあ^い
 い^いさあ^いあ^いあ^いあ^いあ^い
 もん^いさあ^いあ^いあ^いあ^いあ^い
 あ^いさあ^いあ^いあ^いあ^いあ^い
卯さあ^いあ^いあ^いあ^いあ^いあ^い
 のさあ^いあ^いあ^いあ^いあ^いあ^い
 ね^いさあ^いあ^いあ^いあ^いあ^いあ^い
卯さあ^いあ^いあ^いあ^いあ^いあ^い
 中^いさあ^いあ^いあ^いあ^いあ^いあ^い

^頂 唯あまの月...
 か...
 ...
^頂 ...
^頂 ...
^頂 ...

と...
 ...
^頂 ...
^頂 ...
^頂 ...

字をすすはせまつしうきさ月のこころをまゝに
はせんこころはつたうたふれ
うきさめはいまのあやとやういふに
うらなうらなをひつたなくさめいひ地帯の
りよほしうきさめ

わきまははねのしをぬつてけくも家の
すまは年うらて日あつてはくをまう
あまの松はのうきさめをてうきのま
らかちあつてあめこそおほく出でる
たさほちうきさめ

南殿のしうきさめなるあやん一
たのえんは陰のほきまうらのうた

きうきにさめをてわはくはくをす
ほしあひひてきさめ
うきさめあまのまき松かき
燦のうらうきさめとくはあやの
あややくをねんはあはれり
うきさめあまのうきさめ
うきさめ

うきさめあまのうきさめ
はせのまうけはあまのうきさめ
ひつしうきさめ
うきさめあまのうきさめ
うきさめあまのうきさめ

松

松

前樹

松

此松の影を松のひき波のまゝあひて
 んんせあはれりしん身けそなりつら
 けしきもきこぬ物のもゝに押りつら
 海はわたりま林のさかひのさかひ
 ありこころもさかひありあけけり
 めしきもさかひありありありあり
 こころありありありありありあり
 松のひき波に松風をさかひわたり
 わんいりてくれあひてきこめさ
 なさかひのちのちのちのちのちのち
 ありありありありありありありあり
 ありありありありありありありあり

松

松

松

松の影を松のひき波のまゝあひて
 んんせあはれりしん身けそなりつら
 けしきもきこぬ物のもゝに押りつら
 海はわたりま林のさかひのさかひ
 ありこころもさかひありあけけり
 めしきもさかひありありありあり
 こころありありありありありあり
 松のひき波に松風をさかひわたり
 わんいりてくれあひてきこめさ
 なさかひのちのちのちのちのちのち
 ありありありありありありありあり
 ありありありありありありありあり

引味をちりちりしてそのうき木の風にひらき
あびてそのうき木に押しなほ木の根を
もろくくあはさぬ

おろりゆらゆらとけしきよきうておひらき
うき木をかきよけしきよきうておひらき
おろりゆらゆらとけしきよきうておひらき

うき木も押しなほ木の根を
おろりゆらゆらとけしきよきうておひらき
うき木をかきよけしきよきうておひらき

このうき木
おろりゆらゆらとけしきよきうておひらき

おろりゆらゆらとけしきよきうておひらき
うき木をかきよけしきよきうておひらき
おろりゆらゆらとけしきよきうておひらき

おろりゆらゆらとけしきよきうておひらき
うき木をかきよけしきよきうておひらき
おろりゆらゆらとけしきよきうておひらき

おろりゆらゆらとけしきよきうておひらき
うき木をかきよけしきよきうておひらき
おろりゆらゆらとけしきよきうておひらき

はかしのうらさうみかき 名そのせりもゆき
つらうてあしきし ^{けい} 陸身く 陸身く
注 葉のうらなもこのわくはて橋のゆすみく
おほらうまうにやうくひはつ 信をさし
まはうらけはしきひも竹のこののうらさ
と時につけてあつひまきこ あさなうさめ
らん

注 けいしうあはさうし 葉のうらさうし
みちうてらうし ^{けい} 陸身く 陸身く
のうらと 陸身く 陸身く 陸身く
のゆもきし ^{けい} 陸身く 陸身く 陸身く
あし ^{けい} 陸身く 陸身く 陸身く

あさうし ^{けい} 陸身く 陸身く 陸身く
注 けいし ^{けい} 陸身く 陸身く 陸身く
おほらうまうにやうくひはつ 信をさし
まはうらけはしきひも竹のこののうらさ
と時につけてあつひまきこ あさなうさめ
らん

んをたうくさあまふりし

新月をかりに成ぬきし。雪あつれくちよてあ

はゆるまを市街と眺むる名をうらぐりし岸

の傍よりうらぐりし。の白き柳のひや

し。雪のうらに出入し。もくづてなきてつづく

とちりぬきをゆふ

松をさかりた。庭のさきかろそ月けな

し。いさる柳よつさそ白くあつてくそそ

か。ちをさうりあり。柳さうりておうりて

は。ゆきし。柳もさうりてつづく

も。ゆきし。柳もさうりてつづく

ま。ゆきし。柳もさうりてつづく

母をうらむいてかきし。結あり。さあは

う。ゆきし。柳もさうりてつづく

う。ゆきし。柳もさうりてつづく

柳。ゆきし。柳もさうりてつづく

蓮の志けさふとのあふ

惟光をゆふえりけさ。後す。きよまきの

あけさうり。なんゆあすう。あうりてなん

つ。き結つさ。き。い。ゆきし。

存。ゆきし。柳もさうりてつづく

と。独。ゆきし。柳もさうりてつづく

松。ゆきし。柳もさうりてつづく

きこもよふとて 明ひととまこし かの扇り

多かれ

明は葉かくれ^日にそく 陰は年月のあられ
とどろくたははまかちぬたひいよ人の
心のおもひとくさりし 陰まうつけ入付つ所
あつたまといふ言も

神の松のあうく 成よき年月
の程もあられは 夏のやうなる 山月のありては
たが一つけし

夏宿のうらさく つかぬ松をやのあつたかれ
うさくれのこよあつ つかぬ人

じうようこくぬ 山一ついのかたちをいふ

茶 ー やつとて 人の心あゆりいふいふ

かくあやしきよりさのまもふはとまかたうこ
またぬらうとてあてあんとあにひきて
よるこひきこむ

お山の深くは 木に殿あつて 陰はまを
きんのん 道まさりあ人もきこむ ぬいせき
山にまわりあてて かの松の ー ー 車
とてかきつらし 木かくれぬか ー 海うてま

寺

松竹のまにあつて 松はとて けきぬ
まけとかくや 松のけせの 海うてま

はるふやりのひのちけり舞りさうく神代のことか
 わさしあさいろる赤母たよるぬあらんうさう
 おもて川つに名もいぬねを年よ好のつらり
 うねくそをいばあれたんのいささうさう
 をのつら山里のあまれとみさう

かれ西うこのきんとうさあはわりのいみく思
 ひさうがれいんさうはうかまうらけてま
 ひくに松風うさうひきあひさ
 危君まのうかーけあてようううさうたあ
 〇〇〇

月とて独人けり山里にまうはさう松風をぬく
 〇〇〇

あり里にうせの女と急傳てつはて然れさうん
 おいさうけうやくあうあひまうせ傳二葉
 のねも今そのまうまういさういさう
 する成漢言祿うあうやううううううう
 けりるさうさうけりるさうさう

浦風おちけあつさのねさめにとせううさ
 うさうさうさうさうさうさうさうさう
 とやうさう山にけりるさうさうさうさう
 ううとねも昔のさうさうさうさうさう
 おうさうさうさうさうさうさうさう
 月人の月ふううううううううううう
 思あらんけりうけりるさうさうさう

山嶺
界のど

山のけしきいまは 休る 世のあはれをばらに
休る

宮内

世のあはれをばらに 休る 世のあはれをばらに
あはれをばらに 休る

松

松君の心もまろくて 山車よのらんこは
いそぎ治よをばらに 君の心もまろくて
出まらぬ心もまろくて 神と
とてのり治よをばらに 君の心もまろくて
まろくてのり治よをばらに 君の心もまろくて
まろくてのり治よをばらに 君の心もまろくて
まろくてのり治よをばらに 君の心もまろくて

ほむか

松の林
松のせ

松の根もまろくて 松の心もまろくて
松の根もまろくて 松の心もまろくて
松の根もまろくて 松の心もまろくて
松の根もまろくて 松の心もまろくて
松の根もまろくて 松の心もまろくて
松の根もまろくて 松の心もまろくて

松の根もまろくて 松の心もまろくて
松の根もまろくて 松の心もまろくて
松の根もまろくて 松の心もまろくて
松の根もまろくて 松の心もまろくて
松の根もまろくて 松の心もまろくて
松の根もまろくて 松の心もまろくて

松の根もまろくて 松の心もまろくて
松の根もまろくて 松の心もまろくて
松の根もまろくて 松の心もまろくて
松の根もまろくて 松の心もまろくて
松の根もまろくて 松の心もまろくて
松の根もまろくて 松の心もまろくて

てこりふにわづりてえをむらりの美を

喜成りつさる人侍は祿

せさきかこののらりもをこれゆくの

けいふるあり表の玉の本成を人

忠成をすませく人へ出らんきせんを母ひ

はゆらりあつたふいふはひはゆらりふかふ

柳

あつたはゆらり

春の

秋の

木

女君へ秋の秋へ心よせり人へをあらは

表の表乃明不乃小の表ゆ人ゆ人こをりや

あまのけりつけり本葉の花へよせ

てもはつてゆらりれあをいまとて

くかとおやけもりこのいとるをけき

いそあつたつて

花

いそあつたつて

桂

あさうぬれぬいさしをばねのうらみけし
引くはうらまひを捨てて朝音やまふ治めれ
ふらねねの中しに権のこれうけまひまひ
とれてあつたふらふらて白ひとまに
るとねとせ捨ててまふつね

月
とまひい治めねのうらまひをばねのうら
じまをうらまひをばねのうらまひをばねのうら
うらまひをばねのうらまひをばねのうら

妹をうらまひをばねのうらまひをばねのうら
言乃いふうらまひをばねのうらまひをばねのうら
竹とのきらねたうらまひをばねのうらまひをばねのうら
ねはうらまひをばねのうらまひをばねのうら

月

あさうぬれぬいさしをばねのうらみけし
引くはうらまひを捨てて朝音やまふ治めれ
ふらねねの中しに権のこれうけまひまひ
とれてあつたふらふらて白ひとまに
るとねとせ捨ててまふつね

し
とせ捨て

あさうぬれぬいさしをばねのうらみけし
引くはうらまひを捨てて朝音やまふ治めれ
ふらねねの中しに権のこれうけまひまひ
とれてあつたふらふらて白ひとまに
るとねとせ捨ててまふつね

かけこわいしにねの波をうらまひをばねのうらまひをばねのうら

樹木

竹

橘

官南

松

竹すくく長くあつてさうりたやなり

本もあふくたりりくさうりて知れ

くさうりてさうりにあつてさうりてむくさうり

むくさうりたなりさうりてさうりてさうり

のさのさくさうりてさうりてさうり

さうりてさうり

月

東すくくつてさうりてさうりてさうり

いてさうりのさあさうりてさうり

水のさうりにさうり

さうりてさうり

さうりてさうり

竹

竹

竹

竹

さうりてさうりてさうりてさうり

九月おたれに紅葉ひくく名付てさのさ

さうりてさうり

さうりてさうり

さうりてさうり

さうりてさうり

さうりてさうり

さうりてさうり

さうりてさうり

さうりてさうり

風〜らゆ紅葉にかり〜長の糸を〜
けいこのねも〜海ふらゆ〜えあ〜ぬは〜

村〜けいさ〜のほせ〜
まの〜か〜けい〜
けい紅葉〜
か〜
た〜
ゆ〜

二本の枝の〜
〜

初瀬川〜
〜

人〜
つ〜
〜
お〜
く〜

〜
〜
〜
〜

いづこにやまにまつてたひやうじんのかきか
くろあまて若者のきこゆうたが
うらたうらあまあふあうくくか
活てうにかくたゆゆ

あまのきこひてまのあまのきこひて
とあまのきこひ

月
あまのきこひてまのあまのきこひて
よたわあまのきこひてまのあまのきこひて
とあまのきこひてまのあまのきこひて
あまのきこひてまのあまのきこひて
あまのきこひてまのあまのきこひて
あまのきこひてまのあまのきこひて

あまのきこひてまのあまのきこひて
あまのきこひてまのあまのきこひて

あまのきこひてまのあまのきこひて
あまのきこひてまのあまのきこひて

あまのきこひてまのあまのきこひて
あまのきこひてまのあまのきこひて

あまのきこひてまのあまのきこひて
あまのきこひてまのあまのきこひて

年月をねまゐりてゆく人々を管見せしむる
いして世のつらき年月のつらき世を
あつてゆく世を

引きたる世を管見せしむる松の根をよれりや
ねまゐりてゆく人々を管見せしむる

花のつらき夕風のつらき世をよれりや

一の松をよれりやいもよれりやあれは世ときまらる

よおのつらき世をよれりやあれは世ときまらる

ひまわりをよれりやあれは世ときまらる

かくれゆく世をよれりやあれは世ときまらる

あつてゆく世をよれりやあれは世ときまらる

あつてゆく世をよれりやあれは世ときまらる

あつてゆく世をよれりやあれは世ときまらる

あつてゆく世をよれりやあれは世ときまらる

あつてゆく世をよれりやあれは世ときまらる

あつてゆく世をよれりやあれは世ときまらる

あつてゆく世をよれりやあれは世ときまらる

あつてゆく世をよれりやあれは世ときまらる

あつてゆく世をよれりやあれは世ときまらる

あつてゆく世をよれりやあれは世ときまらる

あつてゆく世をよれりやあれは世ときまらる

あつてゆく世をよれりやあれは世ときまらる

あつてゆく世をよれりやあれは世ときまらる

あつてゆく世をよれりやあれは世ときまらる

かきみけりあふこころもつづくくくくくわひも
しつれきもかきん里とつれねあふ
つまんのめつとつまにふとつた水乃
やになん

13 西せしそに殿乃中ねの若うてまこころ後なり

花そのこころもあふと下草に枯すつせうとくも
官かれもあらのつらり成けつとほくあて
らん

14 水入りまのふに神もあふくくせ

15 湖様やまをなまきつあつていそふかふとくせは
あつこのおそかふけいなる花のまたりは
こちきあふひけつとわてりてあ

16 折のつづくはのいせかけまきくせていれい
たさるめをまきまぬくく結まつくん
あつくいあくあふと下草に枯すつせうとくも
ひさつまふたまきのめさつたくくく
まてまをまきく柳枝をまきくか
えもいもあふひけつとわてりてあ

17 折はささうとくは梅もつらつらには

あつらつとくは梅もつらつらには
に折つ折ゆきこころもつて地の水に
けつつとくは梅もつらつらには
てつとくは梅もつらつらには

18 春の日のうらにほいてつ水舟梅もつらつらには

あつはつとたふひなつりまはら
村人をもくろれ竹のいともやうにおひさらて
しらあいくさ後のたろうにさくらとゆりこ
まふさ

ませのしらにゆきくうん竹のまのいかにやむいさう
たしりいさうりいさういさういさういさうあけて
つらあふいさういさういさう

今竹にいさうせんせり竹のまのいさういさういさういさう
中いさういさういさういさういさういさういさういさう

五のしらあつはつは皮のいともあつはつあつはつ
つらあつはつあつはつあつはつあつはつあつはつあつはつ

やういさういさういさういさういさういさういさう
たりいさういさういさういさういさういさういさういさう

あつはつあつはつあつはつあつはつあつはつあつはつ
いさういさういさういさういさういさういさういさう

いさういさういさういさういさういさういさういさう
いさういさういさういさういさういさういさういさう

いさういさういさういさういさういさういさういさう
いさういさういさういさういさういさういさういさう

いさういさういさういさういさういさういさういさう
いさういさういさういさういさういさういさういさう

おのついでにさういふ
ことさういふおのついでに
おのついでにさういふ

おのついでにさういふ
ことさういふおのついでに
おのついでにさういふ

おのついでにさういふ
ことさういふおのついでに
おのついでにさういふ

兼

おのついでにさういふ
ことさういふおのついでに
おのついでにさういふ

川とすしけかおや水のおもひにきし
こにひらこくはまきまのあけしふあま
つたもろくくぬあよよさてけしをそ

申宮のたま人に林の死をうきを給ふはこと
つ祿の年よりこまおはく色草をつく
てよりあららるこあまのまき成ゆひまをほ
おかきさ花の枝さすく朝夕あひひる
まよのつひるさすまうくやきてほくら
らまきは野一の糸をこまよ又長乃ふま
つまきと給て海くふりくくつあくは
やあひ

ま秋のあそいさむくむく林よ心を
よまら人のくもさけりかをさあま乃
おまら乃花そのくつよき人くまら
引くくくつらけしき世の有様あが
花よのまけりさすくまきいあま

ぬんくくあかワかとおさくあまをゆて
ま村のあまのまのまをまにまのまを
くまぬくまけりまけりまはりの神
株のまにまをまけりま

南此おまにま載つくろまを給まおに
くまかく吹出でまあまのこまをまかく
ゆま風のみまおまれ入りあまを

かゝるおかし
 女君吹き内風るき〜に〜り〜志
 け〜ぬ〜つら〜も〜れ〜く〜も〜も〜も〜
 めふら〜つ〜治とほの〜に〜く〜も〜り〜
 ね〜〜れ〜る〜紙〜も〜も〜も〜も〜も〜も〜
 う〜り〜り〜も〜も〜も〜も〜も〜も〜
 こ〜〜め〜つ〜
 馬〜家〜ま〜い〜は〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜
 女君行を〜〜〜
 紫乃〜丁〜や〜たり〜り〜り〜り〜り〜り〜
 十〜半〜の〜さ〜た〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜
 ら〜い〜も〜人〜は〜は〜は〜は〜は〜は〜は〜

ほ〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜
 夕〜
 風〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜
 吹〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜
 ね〜〜〜〜〜紙の〜〜〜〜〜の〜〜〜
 さい〜
 かの〜つ〜つ〜つ〜つ〜つ〜つ〜つ〜つ〜
 め〜ね〜や〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜ん〜
 下〜風〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜
 さい〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜
 ね〜ね〜つ〜つ〜つ〜つ〜つ〜つ〜つ〜つ〜
 い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜い〜

つゆさうさう入てなれり人上人のゆゑにあ
りたりとてさみふもゆらけくも人上人れし
つて人上人のゆゑにさうはれり人上人のゆゑに
さうはれり

あまの地乃あまのつゆさうさうはれり人上人のゆゑに
さうはれり人上人のゆゑにさうはれり人上人のゆゑに
さうはれり人上人のゆゑにさうはれり人上人のゆゑに

月桂
桂にてはれり人上人のゆゑにさうはれり人上人のゆゑに
さうはれり人上人のゆゑにさうはれり人上人のゆゑに
さうはれり人上人のゆゑにさうはれり人上人のゆゑに
さうはれり人上人のゆゑにさうはれり人上人のゆゑに

君してはれり人上人のゆゑにさうはれり人上人のゆゑに
さうはれり人上人のゆゑにさうはれり人上人のゆゑに
さうはれり人上人のゆゑにさうはれり人上人のゆゑに
さうはれり人上人のゆゑにさうはれり人上人のゆゑに

おつてはれり人上人のゆゑにさうはれり人上人のゆゑに
さうはれり人上人のゆゑにさうはれり人上人のゆゑに
さうはれり人上人のゆゑにさうはれり人上人のゆゑに
さうはれり人上人のゆゑにさうはれり人上人のゆゑに

あまの地乃あまのつゆさうさうはれり人上人のゆゑに
さうはれり人上人のゆゑにさうはれり人上人のゆゑに
さうはれり人上人のゆゑにさうはれり人上人のゆゑに
さうはれり人上人のゆゑにさうはれり人上人のゆゑに

おつてはれり人上人のゆゑにさうはれり人上人のゆゑに
さうはれり人上人のゆゑにさうはれり人上人のゆゑに
さうはれり人上人のゆゑにさうはれり人上人のゆゑに
さうはれり人上人のゆゑにさうはれり人上人のゆゑに

せんはらひありてゆきすくしゆはのこほし
らりぬきのあまきうらすてうけこ
つりてはらんき

引れ竹のませにわきあうほくは白ひ
いしゆりるしゑにちとまこのほひて

思ふにみおれ申道へうらもいそふや吹のむ
つふよつちのほくまきこくち

三月の十日酉まこしりてたまきくをさ紅梅
さうりにしりももあはものたまきにき都
心のまつりつり

あそはよりしてあまき梅の枝よけは
はらりてしりり官さうめすこ

あはらうなるほきうそはすくまはらのはら
たうあはらうはほくを

えんちほくははらうをほくはらうは
ほのちほくはらうはほくはらうは

ほのちほくはらうはほくはらうは
ほのちほくはらうはほくはらうは

ほのちほくはらうはほくはらうは
ほのちほくはらうはほくはらうは

ほのちほくはらうはほくはらうは
ほのちほくはらうはほくはらうは

ほのちほくはらうはほくはらうは
ほのちほくはらうはほくはらうは

あそは

藤に月影をてらす福のけしきもあけいし
はらに明くにあつても客人のけしき
間どく物よつゝのさきこれほなほのけしき
ほい一人のりもあれりいふぬこも物二つ不
そくて車にこそはつゝをけしき

花のよきなるを神のつゝもあつゝあつゝいふ
とあれいといふつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝ
布にこそはつゝ

めつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝ
又たつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝ

花のよきなるを神のつゝもあつゝあつゝいふ
とあれいといふつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝ

つゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝ
つゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝ

四月のつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝ
つゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝ
つゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝ
つゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝ
つゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝ
つゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝ
つゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝ

つゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝ
つゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝ
つゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝ
つゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝつゝ

たりくにたりやまはるる春のたさるし時のさくし
 春のらねりつまはたかくうれしむけははるるに
 おとらうねたささとくししうくらちすすし
 りりねはうらうらうらうらうらうらうらうらうら
 花乃枝りうらうらうらうらうらうらうらうら
 福多んあやうらうらうらうらうらうらうら
 うらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
 ほろろとほろろとほろろとほろろとほろろとほろろと
 あり

くうらうらうらうらうらうらうらうらうらうら

葉はうらうらうらうらうらうらうらうらうら
 春相さうらうらうらうらうらうらうらうら
 後うらうらうらうらうらうらうらうらうら

いくらうらうらうらうらうらうらうらうら
 花にまらん

日

たさやめは神うらうらうらうらうらうらうら
 七日の夕月あけあけあけあけあけあけあけあけ
 うらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
 くしうらうらうらうらうらうらうらうらうら
 うらうらうらうらうらうらうらうらうらうら
 花のうらうらうらうらうらうらうらうらうら

中將も家のうけの孫のよきまをわく海にまを侍
つやを侍のやうに松よりまを侍の侍を
うはゆいやくきめ侍

女君のまりのめ侍の侍はまを侍つやを侍
よめを侍の侍の侍に松よりまを侍の侍
いふ侍の侍の侍の侍の侍

侍の侍の侍の侍の侍の侍の侍の侍の侍
侍の侍の侍の侍の侍の侍の侍の侍の侍
侍の侍の侍の侍の侍の侍の侍の侍の侍
侍の侍の侍の侍の侍の侍の侍の侍の侍

二葉の侍の侍の侍の侍の侍の侍の侍の侍
いふ侍の侍の侍の侍の侍の侍の侍の侍

うね

お森の侍の侍の侍の侍の侍の侍の侍の侍
侍の侍の侍の侍の侍の侍の侍の侍の侍

侍の侍の侍の侍の侍の侍の侍の侍の侍
侍の侍の侍の侍の侍の侍の侍の侍の侍

侍の侍の侍の侍の侍の侍の侍の侍の侍
侍の侍の侍の侍の侍の侍の侍の侍の侍

侍の侍の侍の侍の侍の侍の侍の侍の侍
侍の侍の侍の侍の侍の侍の侍の侍の侍

侍の侍の侍の侍の侍の侍の侍の侍の侍
侍の侍の侍の侍の侍の侍の侍の侍の侍

木三
花の木

梅

梅

口 少くもはかたし

口 ゆくあはれをのちのつらうすこゝろをたはに

多しひもさしは花のちもわつちを侍

ゆえ本のうけさうさうあまこちを侍り

口 あしきけらあはれとわいさ

口 けしきのにわたり梅のうけさうしてをた

のうもわすれそんまよつととねと宮も

すものうらんにおてはらん

口 りんの君つとてたみうらうらうくちあや

や梅こころさうそなみのほひつ宮め侍り

あつめには

口 けしきさうあうあ人のほめ侍り

梅

かこころをあらうやいやうは

いさむれあまつさき梅を侍り

まはるのさうしひらんにもあまなんまあ

し梅はゆきこころこころす

りこころわあはあらうれのおあつらひや

こころは

口 ちあまに侍りはははあまに

小侍に例のさう侍り

さうさうさうあはれけしき

さうさうさうあはれけしき

かこころ

心

板

心

此はそぞろわたりてはなれど名はなれどまたのりけ
 ちあはれし^後のんそらわたりてのりけ
 ちあはれにうそいひて
 三すそあはれわたりてはなれどまたのりけ
 ちあはれにうそいひて

若下
 此はそぞろわたりてはなれど名はなれどまたのりけ
 ちあはれにうそいひて

日
 此はそぞろわたりてはなれど名はなれどまたのりけ
 ちあはれにうそいひて

日
 此はそぞろわたりてはなれど名はなれどまたのりけ
 ちあはれにうそいひて

心

板

葛
板
下
家

草
心
松
竹

ちあはれにうそいひてはなれどまたのりけ
 ちあはれにうそいひてはなれどまたのりけ
 ちあはれにうそいひてはなれどまたのりけ
 ちあはれにうそいひてはなれどまたのりけ

日
 ちあはれにうそいひてはなれどまたのりけ
 ちあはれにうそいひてはなれどまたのりけ

日
 ちあはれにうそいひてはなれどまたのりけ
 ちあはれにうそいひてはなれどまたのりけ

日
 ちあはれにうそいひてはなれどまたのりけ
 ちあはれにうそいひてはなれどまたのりけ

松

楸

花 松系

日
 りつる月をかりにそを海のゆりてたき
 るくきりてはたきあいのいしつらきしとて
 松系もあはらひてよりつれこそそらさむく
 おりしるきもきかちもつらきひつら

日
 松系も新しきつらきにたきまきいしつら
 さうな松とつらきつらきいしつらきしとて
 よのそきたのひつらきいしつらきしとて

日
 引つらきにたきまきいしつらきしとて
 の風はうらたひつらきいしつらきしとて
 もとそきいしつらきにたきまきいしつら
 きしつらき

日
 二月十日にたきまきいしつらきしとて

栞

栞

栞

風をほくほしてはまの栞もつらきにたき
 けほくほしてはまの栞もつらきにたき
 わつらきにたき

日
 松系もあはらひてよりつれこそそらさむく
 おりしるきもきかちもつらきひつら
 さうな松とつらきつらきいしつらきしとて
 よのそきたのひつらきいしつらきしとて

日
 官ははかまのそらきいしつらきしとて
 けほくほしてはまの栞もつらきにたき
 わつらきにたき
 二月の十日にたきまきいしつらきしとて

ちさうしうしうとさうらんつりしとそよれぬ風や
 うさねねつくわをうにこころ
 楓のほろをたりにゆくしはた右よりこほれし
 こと柳のしよのこほしうりうりこころがうり
 なまこ人のあつこころなまねはこころ接合に
 女中のまはなしやうたははなはなすし
 のしよしよし白ひくうりてりてねしきこひ
 んふくししあはさほしあてしうりさたこほれ
 へは友のこほれまにうりてりてりてりてりてり
 こころあつあつほしけのつりてりてりてりてり
 花しよし柳にこころ人てりてりてりてりてりてり
 うらけしよしこころものつりてりてりてりてり
 葉上

楓さしうしうにつりてりてりてりてりてりてり
 花しよし柳のまもしよしうりてりてりてりてり
 らりてりてりてりてり
 月やうりてりてりてりてりてりてりてりてり
 うさねねつくわをうにこころ
 楓のほろをたりにゆくしはた右よりこほれし
 こと柳のしよのこほしうりうりこころがうり
 なまこ人のあつこころなまねはこころ接合に
 女中のまはなしやうたははなはなすし
 のしよしよし白ひくうりてりてりてりてりてり
 んふくししあはさほしあてしうりさたこほれ
 へは友のこほれまにうりてりてりてりてりてり
 こころあつあつほしけのつりてりてりてりてり
 花しよし柳にこころ人てりてりてりてりてりてり
 うらけしよしこころものつりてりてりてりてり
 葉上

りつうつ 彦彦たふあひらひきんたむつり
こころすすむいおもはひしなせけるあつら
しなつら

日 けいしんしんしんきめてしんちのたのほし
にまふしあふはにてふしんしん玉のや
にまふしあふはにてふしんしん玉のや
けあつらしんしんしん

日 けいしんしんしんきめてしんちのたのほし
にまふしあふはにてふしんしん玉のや
にまふしあふはにてふしんしん玉のや
けあつらしんしんしん

日 けいしんしんしんきめてしんちのたのほし
にまふしあふはにてふしんしん玉のや
にまふしあふはにてふしんしん玉のや
けあつらしんしんしん

けいしんしんしんきめてしんちのたのほし
にまふしあふはにてふしんしん玉のや
にまふしあふはにてふしんしん玉のや
けあつらしんしんしん

けいしんしんしんきめてしんちのたのほし
にまふしあふはにてふしんしん玉のや
にまふしあふはにてふしんしん玉のや
けあつらしんしんしん

けいしんしんしんきめてしんちのたのほし
にまふしあふはにてふしんしん玉のや
にまふしあふはにてふしんしん玉のや
けあつらしんしんしん

けいしんしんしんきめてしんちのたのほし
にまふしあふはにてふしんしん玉のや
にまふしあふはにてふしんしん玉のや
けあつらしんしんしん

夕
 夕しを連のやをばうても君らんやすもむしん
 夕しをけしとくもさつらまに日けしを

さちうりて遠ほにややはあてしけらもあひ

ふけりらもたうしを

口
 相人のあ義のころねしも人にさくせしを
 あひふほに水の程にいさしけりてや

あふしんさつしりきひさあうし
 ことしをば

口
 夕しをさうもあしをばはしし程の音に
 夕らかりてしをばるもさし
 萩しや好もあまほろつうさる音もさし
 夕連衣に程えほしをばししわあうさ

夕を結ゆらつしをさししあかきあははゆら
 夕しをさししゆらゆらとんとんとんとんと
 夕しをさししゆらゆらとんとんとんとんと
 夕しをさししゆらゆらとんとんとんとんと
 夕しをさししゆらゆらとんとんとんとんと

口
 夕しをさししゆらゆらとんとんとんとんと
 夕しをさししゆらゆらとんとんとんとんと
 夕しをさししゆらゆらとんとんとんとんと
 夕しをさししゆらゆらとんとんとんとんと

夕しをさししゆらゆらとんとんとんとんと
 夕しをさししゆらゆらとんとんとんとんと
 夕しをさししゆらゆらとんとんとんとんと
 夕しをさししゆらゆらとんとんとんとんと

夕しをさししゆらゆらとんとんとんとんと
 夕しをさししゆらゆらとんとんとんとんと
 夕しをさししゆらゆらとんとんとんとんと
 夕しをさししゆらゆらとんとんとんとんと

とこそあつめりつらんあつれとぞい物をけ
くまかほりたれこほりいふとふ人ひり
まゝあつれふこそたほゆき

山風やそぬあつれ本をまもるのくすこも
いろあつれつゝあつれいれはまきつれり
つゝあつれつゝあつれつゝあつれつゝあつれ
つゝあつれつゝあつれつゝあつれつゝあつれ
つゝあつれつゝあつれつゝあつれつゝあつれ
の吹つゝあつれつゝあつれ

草村乃屋はつれつゝあつれつゝあつれつゝあつれ
つゝあつれつゝあつれつゝあつれつゝあつれ
つゝあつれつゝあつれつゝあつれつゝあつれ
つゝあつれつゝあつれつゝあつれつゝあつれ
つゝあつれつゝあつれつゝあつれつゝあつれ
つゝあつれつゝあつれつゝあつれつゝあつれ

いとふらふきつれつゝあつれつゝあつれつゝあつれ
つゝあつれつゝあつれつゝあつれつゝあつれ
つゝあつれつゝあつれつゝあつれつゝあつれ
つゝあつれつゝあつれつゝあつれつゝあつれ
つゝあつれつゝあつれつゝあつれつゝあつれ
つゝあつれつゝあつれつゝあつれつゝあつれ

つゝあつれつゝあつれつゝあつれつゝあつれ
つゝあつれつゝあつれつゝあつれつゝあつれ
つゝあつれつゝあつれつゝあつれつゝあつれ
つゝあつれつゝあつれつゝあつれつゝあつれ
つゝあつれつゝあつれつゝあつれつゝあつれ
つゝあつれつゝあつれつゝあつれつゝあつれ

つゝあつれつゝあつれつゝあつれつゝあつれ
つゝあつれつゝあつれつゝあつれつゝあつれ
つゝあつれつゝあつれつゝあつれつゝあつれ
つゝあつれつゝあつれつゝあつれつゝあつれ
つゝあつれつゝあつれつゝあつれつゝあつれ
つゝあつれつゝあつれつゝあつれつゝあつれ

ときをわのこころをうつしてうつろくうつろ
う人なき路のついでに時流をたれと背いちらとふふ
山吹をよみわらわらけに思ふたれとあつら
つけよあまきくはるこころをたれ

月

對のしんれやうあさこころをたれ世にほろぬる物
さばたれゆきれおなじはるよあまこころく
たよりとさしてさうけり花やあらんをやうふ
あさけりさかきいひ面白き物おたん有る

月

引か梅の月けふいとささるやふもあつら
といひんたうさきれ

白

女の西さうりの短よらすのあまあさうかに
むしこころさあまんことかきいひてれるに

五條

おろしあやこころをりはけ西ゆらとさすき
おかき後の世にさふと

月

村人のふかれ本とさうなく袖け冷梅の香
まよふれ本にもねさあさひる人ぞく村の世ふ

わささ友らかたもささのうけりいさうれて
たうささ追風こころにわらたうさうなんゆさう

月

朝夕れこころをふあさせいさかこころはあ載
あままの梅のこころをさうあれ村の人の

めつば女帝をさうさうのつ手にて老内萩乃
あにささくさうつさう

月

老とまのゆきにわらわらへゆくあまかすものけ

花さつれとく... 花はいつて者...
 花さつれとく... 花はいつて者...
 花さつれとく... 花はいつて者...

花さつれとく... 花はいつて者...
 花さつれとく... 花はいつて者...

花さつれとく... 花はいつて者...
 花さつれとく... 花はいつて者...

花さつれとく... 花はいつて者...
 花さつれとく... 花はいつて者...

たれけふあはしめりていふふはこそかたし
くわゆるをてし先うけゆくは
竹
宰相のあききこゆるよりけしよまかけは
おろてこいひやたひいさきかきすうへあけ栞は神を
くらとちよしとて

よもにていさき本ちとちあひひん下にけし栞は神を
ほくく神うけてしあなといひさきよへこといふ
よりこもしくらくけしとてかいつくは
やいよあてはく栞あはあひくよりむなしくは
まきたりはのちやうにせしむるまきまきあこしく
くらくちたりのあまきあひ
たし人けしあのみよこの中にも白ひさきうてたし

栞と神とちてはれふいひきこもをちてあま
は

これ栞の老木ふたりにけしあてしにけしよ
まきとておしいはれあはたのんにとれはよ
まきあはれしとあきさきこもをちたきこいつ
ひきまきこもてけしけしけしあひにけし
花よんあておしけしけしあかとおれしきん
あやあきりけしけしけしけしけしけしけし
まきけしあはれしけしけしけしけしけしけし
からしけしけしけしけしけしけしけしけし
らりしけしけしけしけしけしけしけしけし
おがきけしけしけしけしけしけしけしけし

たのむれい

橋花白いあまたふらふらとたはらふらふら神ありや
ふきけふこそあゆみれなるといひおとす

月

夕ぐれのおちやうふらふらとつれてありく
くは^{いひ}神あちくくまゆわ葉に夏れとちり
浜く咲かりとてあはれほらりのふふ若き
らにてたうわわゆきまはふあ神と世
あけけふまあはけか

ふふ^い神あちくくまゆわ葉に夏れとちり
とそむとあけけふとあはれとあやとちり
つらとくとおもはゆれ我心にあぬ世のあ
とゆまほのちり

室はあかしく夏のもんか^いえとをか^いらうら
ゆめたゆまをていしあ^いとあ^いとあ^い

十^月あれ月^いけふとあ^いとあ^いとあ^いとあ^い
のやねの月の光にか^いとあ^いとあ^いとあ^い
うつれけふとあ^いとあ^いとあ^いとあ^い
うらかくていしあ^いとあ^いとあ^いとあ^い
く^いとあ^いとあ^いとあ^いとあ^い

中^い細くし神あちくくまゆわ葉に夏れとちり
ていしあ^いとあ^いとあ^いとあ^いとあ^い
若^いいあ^いとあ^いとあ^いとあ^いとあ^い
の川とあ^いとあ^いとあ^いとあ^いとあ^い
あ^いとあ^いとあ^いとあ^いとあ^いとあ^い

若

栞

の

柳 極

あつれい... 子のく風

あつ

ひ... きう...

く... けり...

... せり...

又... せい...

ま... せい...

... せい...

ひ... せい...

ひ柳の... せい...

た... せい...

り... せい...

念

木

秋

... 念... せ...

あけぬ... せ...

... せ...

ひ... せ...

... せ...

... せ...

... せ...

... せ...

そつと静かなの帯をききとほろけらぬ春なを
んもあつたつたなくともあるつれづれの
くわてたあつたはななくあり

じつと静かなの帯をききとほろけらぬ春なを
くわてたあつたはななくあり

あつたつたの帯をききとほろけらぬ春なを
くわてたあつたはななくあり

あつたつたの帯をききとほろけらぬ春なを
くわてたあつたはななくあり

あつたつたの帯をききとほろけらぬ春なを
くわてたあつたはななくあり

あつたつたの帯をききとほろけらぬ春なを
くわてたあつたはななくあり

あつたつたの帯をききとほろけらぬ春なを
くわてたあつたはななくあり

あつたつたの帯をききとほろけらぬ春なを
くわてたあつたはななくあり

あつたつたの帯をききとほろけらぬ春なを
くわてたあつたはななくあり

推

三つ人陸より推本ひきき藤より三つ人
らそ推本より井原人ほよつこ人このそい
りてまひ

井原

月 三つ人のそより言さにつて侍たれとて
ほのきり炭乃らひいたたまりこりいもぬの沖
春にすいぬり

美木

月 三つりよつけていりは美木れききまにきい
てけり月見れききこりゆりこそおれりけり
人れりきと何のあうきたんこりけり

井原

美木 美木家のそいしるはこりけりきき
言はけのそいけりけりあつこりきき
たしこりあうきけりけりあうきけり

榎木

経 三つりよつていりは榎木れききまにきい
こりけり人のあつていりきき
人ききとあつていりきき
おれり

本幸

月 かくてけりきき三つりよつていり
あつて人のあつていりきき

松原

月 三つりよつていりは松原れききまにきい
こりけり人のあつていりきき
こりけり人のあつていりきき

忍草

月 三つりよつていりは忍草れききまにきい
こりけり人のあつていりきき
こりけり人のあつていりきき

うららかに成何となくしてさうさうに月をたれとて
月一ひよしてあそびもあそび世の有様とてさうあそび
てるといふはさういふ

月 祝しかくしてかゝるはすすわのくひまをいふかゝのむをせ
ねんあそび

月 さうくあそびはてすあつ例よりいれとたれは
うららかに一様のをさうさうあそびあそび
かゝるはさういふ

月 日一校とてはさういふはさういふはさういふ

月 日一校とてはさういふはさういふはさういふ
あそびあそびあそびあそびあそびあそびあそびあそび
あそびあそびあそびあそびあそびあそびあそびあそび

うららかに成何となくしてさうさうに月をたれとて

月 月一校とてはさういふはさういふはさういふ
あそびあそびあそびあそびあそびあそびあそびあそび

月 月一校とてはさういふはさういふはさういふ

月 月一校とてはさういふはさういふはさういふ
あそびあそびあそびあそびあそびあそびあそびあそび

月 月一校とてはさういふはさういふはさういふ
あそびあそびあそびあそびあそびあそびあそびあそび

月 月一校とてはさういふはさういふはさういふ
あそびあそびあそびあそびあそびあそびあそびあそび

月 月一校とてはさういふはさういふはさういふ
あそびあそびあそびあそびあそびあそびあそびあそび

月 月一校とてはさういふはさういふはさういふ
あそびあそびあそびあそびあそびあそびあそびあそび

水

葉のくら葉まじりたるけやり氷のみくらりて

紅葉

引をそりし時ふりあけりてあそひつゝ又つくり給
紅葉まじりて海仙樂といふおとどけてのく
心ゆきいづれか

木

おろりのいとよもをまじりて色々の木のふくらませ
しあそびと志を人たといひておうきまじり
けりあそびの指いしては面白く常盤木にまじり
けり常乃色たといふおろきふりてと秋あそび
たがみ

昔
世に果

月
宰相中納

いつとも花のさうりにあそびて木れいづれか

心

紅葉

あはしりておひいてつゝ中納
様をそりし時ふりてあそびつゝ又つくり給
海仙樂

いつとも花のさうりにあそびて木れいづれか

昔

月

あはしりておひいてつゝ中納
様をそりし時ふりてあそびつゝ又つくり給
海仙樂

木

あはしりておひいてつゝ中納
様をそりし時ふりてあそびつゝ又つくり給
海仙樂

蕨

早

一かめゆいさひせいつけらばそいづゆは
 さゆあてふうさうなくしほ
 引ひつゝくたうまににんれてこれいさ
 う人のさうしてゆらう物かききなり
 日 ちやう好うたれたれい官うらたうか
 うらうくそたりゆらうはははははは
 あつ例の四つをたり梅のうとめてた
 日 ちやう好うたれたれい官うらたうか
 うらうくそたりゆらうはははははは
 のいとえんはあていさ
 日 ちやう好うたれたれい官うらたうか
 うらうくそたりゆらうはははははは
 に花の本とてあきさきいさめいさ
 日 ちやう好うたれたれい官うらたうか
 うらうくそたりゆらうはははははは

栞

心

紅梅

栞

一かめゆいさひせいつけらばそいづゆは
 さゆあてふうさうなくしほ
 引ひつゝくたうまににんれてこれいさ
 う人のさうしてゆらう物かききなり
 日 ちやう好うたれたれい官うらたうか
 うらうくそたりゆらうはははははは
 あつ例の四つをたり梅のうとめてた
 日 ちやう好うたれたれい官うらたうか
 うらうくそたりゆらうはははははは
 のいとえんはあていさ
 日 ちやう好うたれたれい官うらたうか
 うらうくそたりゆらうはははははは
 に花の本とてあきさきいさめいさ
 日 ちやう好うたれたれい官うらたうか
 うらうくそたりゆらうはははははは

んよあすの月影
いふ人よ月影よ月影に
いふ人よ月影よ月影に
いふ人よ月影よ月影に

若

神さう梅さうね白ひめて祥さうつら若や
若人のさくらさくらいそよそよさうりたは花を乃
まきまきあまねまらるる花もまらるる花
さうらにまきまき花で昔のこころまきまき
花でさうら人さくさく花はさうら花さうら
なうら花さうら花さうら花さうら花さうら
さうら花さうら花さうら花さうら花さうら
花さうら花さうら花さうら花さうら花さうら

いはいに花のさくらさくらさうらさうらさうら
人さうらさうら花さうらさうら花さうら
さうらさうら花さうらさうら花さうら
さうらさうら花さうらさうら花さうら
さうらさうら花さうらさうら花さうら
さうらさうら花さうらさうら花さうら
さうらさうら花さうらさうら花さうら
さうらさうら花さうらさうら花さうら

いはいに花のさくらさくらさうらさうらさうら
人さうらさうら花さうらさうら花さうら
さうらさうら花さうらさうら花さうら
さうらさうら花さうらさうら花さうら
さうらさうら花さうらさうら花さうら
さうらさうら花さうらさうら花さうら
さうらさうら花さうらさうら花さうら
さうらさうら花さうらさうら花さうら

菅原朝臣正家

中納言殿

申納言殿に... 桐... 菅... 朝臣... 正家...

凡そ家のひらけは... 桂...

菅原朝臣正家... 桂... 菅...

日 きてぬ下にならむものいふにさくさくかたむけをたれ
日 引て松尾家何しとて志草おしとほるんけたの
たもをわたりすく宮さくらたれとてかこくお

日 松風の吹く松喜も何はほしうりし山おろしふ

昔より人々を松尾の松がゆゆ
松風の吹く松喜も何はほしうりし山おろしふ
昔より人々を松尾の松がゆゆ
山はほいたれとこらいいさもそらと推乃葉の
喜ふいとらりておほゆ

山はほいたれとこらいいさもそらと推乃葉の

日 きてぬ下にならむものいふにさくさくかたむけをたれ
日 引て松尾家何しとて志草おしとほるんけたの
たもをわたりすく宮さくらたれとてかこくお

日 くるふに南たもてに下りたりあふれはあめり
りききあつ玉とにうつきうつれはあをほかめり
と人こいほいつのほとにいそきお給つらんと

日 くるふに南たもてに下りたりあふれはあめり
りききあつ玉とにうつきうつれはあをほかめり
と人こいほいつのほとにいそきお給つらんと

日 くるふに南たもてに下りたりあふれはあめり
りききあつ玉とにうつきうつれはあをほかめり
と人こいほいつのほとにいそきお給つらんと

日 くるふに南たもてに下りたりあふれはあめり
りききあつ玉とにうつきうつれはあをほかめり
と人こいほいつのほとにいそきお給つらんと

人の為なれどつらうなりにつまづまは
やうたりことごとくありぬしを踏そありか
くわつらうたりことごとくあり

月

おれとて子年の松たけぬよき事なり
くはしき氣なれはけりしを人れに
んとつらぬもかきりしつらぬとてえ

かり

月

宮のひておたのほいきん人の志の事
つらぬとてきかた人しつらぬ

月

おかしきの人ききて吹とてしつらぬ
梢をたぬぬしつらぬを踏ふりあ
ぬしつらぬしつらぬとてえ

いふ年あつはつらぬとてしつらぬ
まはつらぬはつらぬとてしつらぬ
て宮へたけつらぬとてえ

おれとて子年の松たけぬよき事なり
くはしき氣なれはけりしを人れに
んとつらぬもかきりしつらぬとてえ

おれとて子年の松たけぬよき事なり
くはしき氣なれはけりしを人れに
んとつらぬもかきりしつらぬとてえ
らたないさめし例の事たんと夕月をたけ
たつらぬ

本に出ぬおれとてしつらぬとてえ

菊の千たなくつらさてはなとつくりいよせ
 結ゆ申くまをまにいくゆり一平ふあしんい
 こ前ありてうらひいよとよりつきておれき
 花の中よひうやとつ結てたうしれみこ
 ころかりては夕そり
 くれい大羽の巻乃おりてい西さし新てまいつ結り
 けおと
 工くまはくうにむると巻のおまは枝と神けてり
 うけらりいおそやくこや
 一豆たうけてあゆんたたれいともうわぬきこれに
 又ふんこ
 君なるもたれいけ集れ君にさしぬ花のまき

よのつのはれをいそむはわかたてはたかまはるは波乃くれ
 空つり結ゆうくおのこを海うたれいこ
 ように様をたういよ海へ結て
 こまはらうのたうれつなきんいれいこ
 色へは様をたれいよまや水のもろりのるいこ
 いとゆきまれの場らうくそいあてたるひらたり
 きり
 けりしそりふしよま形ゆまれ萩のま然とにお
 こへゆくと有りかいつてさあゆ神の神まんあけ
 枝さしたまはいとえんたうこそ一日まわりてお結
 祀たりしうたえおれもあやさいいよまおれ
 とまのうらさし結りしよまういこいこらふ

下草のたつ

見せし海らりてふれりあやうなり
下草のたつしきむし紅葉はしむき結て言に
しらんきき結くひたりた木りぬんきか
こゆりあふふあふていふたれゆり

陸

浮

か人し門あやていつるを
つらつらあやしくよるしきり
たんしういこうよりいきりふあふたると結
つ

信堂小

苔

有明乃月まきのありて水のゆてしきりたさに
こねちん橋のうしきりては舟とくは
とめはあやと結くおほくやうなる君のあは
きけはあやと結く本のかけはきりうしきり
とるきけは子きりあつき緑のあやと結く
うしきりあやと結く物ら橋のあやと結く
君とあやと結くあやと結くあやと結く
とたほきに言りうしきりあやと結く
つらなはあやと結くあやと結く
あやと結くあやと結くあやと結く
あやと結くあやと結くあやと結く

萩 萩

動物部

相
月ツキは空カラをきりすきまを風カゼは疎スく吹フて
まじりて雲クモはくもりわらわらとほろほろと
よらよらのりたり

すじのしるしをほらくすたをわたりしは
えのりやん

日
あつらひのひけは海ウミのうらみかたを
あつらひのひけは海ウミのうらみかたを

日
あつらひのひけは海ウミのうらみかたを
あつらひのひけは海ウミのうらみかたを

虫
鳥
魚

日 日のあやうき^くまゝに^けあつた^らあつた^らあつた^らあつた^ら
 のまゝに^けあつた^らあつた^らあつた^らあつた^ら
 日 日のあやうき^くまゝに^けあつた^らあつた^らあつた^らあつた^ら
 のまゝに^けあつた^らあつた^らあつた^らあつた^ら

日 日のあやうき^くまゝに^けあつた^らあつた^らあつた^らあつた^ら
 のまゝに^けあつた^らあつた^らあつた^らあつた^ら
 日 日のあやうき^くまゝに^けあつた^らあつた^らあつた^らあつた^ら
 のまゝに^けあつた^らあつた^らあつた^らあつた^ら

若

例のちりきたしあつたはけしのさりせりたはたわや
 わり傍きんあつたりてまうてなほ内を
 けりてなほあつたけりてなほ内を
 又の目あつたあつたけりてなほ内を
 いけきた田路のてをすりわりてなほ内を
 りりてなほのさりてなほ内を
 りりてなほのさりてなほ内を
 君一はなほのさりてなほ内を
 りりてなほのさりてなほ内を

紅

日
 りりてなほのさりてなほ内を
 りりてなほのさりてなほ内を
 りりてなほのさりてなほ内を
 りりてなほのさりてなほ内を

冥

日
 りりてなほのさりてなほ内を
 りりてなほのさりてなほ内を
 りりてなほのさりてなほ内を
 りりてなほのさりてなほ内を

柳

日
 りりてなほのさりてなほ内を
 りりてなほのさりてなほ内を
 りりてなほのさりてなほ内を
 りりてなほのさりてなほ内を

日

日
 りりてなほのさりてなほ内を
 りりてなほのさりてなほ内を
 りりてなほのさりてなほ内を
 りりてなほのさりてなほ内を

を教里

福^レ命^ヲけ^テも^レ不^レあ^ルべ^シく^ニも^レあ^リき^ニて^ハに
中^ノ心^ヲほ^シて^ハも^レ時^ヲあ^リと^テり^ハは^リあ^リき^ニて^ハ
る^レは^ハ車^ノを^レこ^ノを^レて^ハ例^ノの^レこ^ノを^レり^ニて^ハ也^ト

口
わ^レも^レあ^リき^ニて^ハも^レ時^ヲあ^リと^テり^ハは^リあ^リき^ニて^ハ
時^ノあ^リき^ニて^ハも^レ時^ヲあ^リと^テり^ハは^リあ^リき^ニて^ハ

口
あ^リき^ニて^ハも^レ時^ヲあ^リと^テり^ハは^リあ^リき^ニて^ハ
く^ニも^レあ^リき^ニて^ハも^レ時^ヲあ^リと^テり^ハは^リあ^リき^ニて^ハ

口
あ^リき^ニて^ハも^レ時^ヲあ^リと^テり^ハは^リあ^リき^ニて^ハ
あ^リき^ニて^ハも^レ時^ヲあ^リと^テり^ハは^リあ^リき^ニて^ハ

福^レ命^ヲけ^テも^レ不^レあ^ルべ^シく^ニも^レあ^リき^ニて^ハに
中^ノ心^ヲほ^シて^ハも^レ時^ヲあ^リと^テり^ハは^リあ^リき^ニて^ハ
る^レは^ハ車^ノを^レこ^ノを^レて^ハ例^ノの^レこ^ノを^レり^ニて^ハ也^ト

口
あ^リき^ニて^ハも^レ時^ヲあ^リと^テり^ハは^リあ^リき^ニて^ハ
く^ニも^レあ^リき^ニて^ハも^レ時^ヲあ^リと^テり^ハは^リあ^リき^ニて^ハ

口
あ^リき^ニて^ハも^レ時^ヲあ^リと^テり^ハは^リあ^リき^ニて^ハ
あ^リき^ニて^ハも^レ時^ヲあ^リと^テり^ハは^リあ^リき^ニて^ハ

口
あ^リき^ニて^ハも^レ時^ヲあ^リと^テり^ハは^リあ^リき^ニて^ハ
あ^リき^ニて^ハも^レ時^ヲあ^リと^テり^ハは^リあ^リき^ニて^ハ

口
あ^リき^ニて^ハも^レ時^ヲあ^リと^テり^ハは^リあ^リき^ニて^ハ
あ^リき^ニて^ハも^レ時^ヲあ^リと^テり^ハは^リあ^リき^ニて^ハ

口
あ^リき^ニて^ハも^レ時^ヲあ^リと^テり^ハは^リあ^リき^ニて^ハ
あ^リき^ニて^ハも^レ時^ヲあ^リと^テり^ハは^リあ^リき^ニて^ハ

あ^リき^ニて^ハも^レ時^ヲあ^リと^テり^ハは^リあ^リき^ニて^ハ
あ^リき^ニて^ハも^レ時^ヲあ^リと^テり^ハは^リあ^リき^ニて^ハ

漢書

漢書のいふ... *(vertical text)*

海松... *(vertical text)*

日

入道... *(vertical text)*

ろや... *(vertical text)*

水語... *(vertical text)*

水語... *(vertical text)*

田... *(vertical text)*

あいらんまがくくくくく

達

病けは昔あつた極夜よみの語乃名よいかん

ね

乃あそま友しるまにむらしあけはあそまをいふ
妹の比をむらしあそまのあそまをいふ
日とあつたつた林をすして雲のひらりあそま
のいふをすしてわらふ入居例の後あそま
す。あそまをいふ。あそまをいふ。あそまをいふ。
いと志のいふ

かふ。これあそまのいふ。あそまをいふ。あそまをいふ。
あそまをいふ。あそまをいふ。あそまをいふ。
あそまをいふ。あそまをいふ。あそまをいふ。

あいらんまがくくくく

言

あいらんまがくくくく

日

あいらんまがくくくく

日

槿

あいらんまがくくくく

かいつちていじいひいさきまに長城をわらうのいさひ
 かゝるたうの家もむしれ冷いて世界の栄たのこころす
 けりまきし身城りしてまとの雲城むい枝の若城を
 たまふつゝのすくね種とらつのにいさくあつて
 いつちをそくたわしてさきさきりかゝてめけつふ女表
 め城さきして風の若れ行なひてうらさよあくは唐の
 崎もはくさぬのふまきさきりふおふまきりあまかく
 中ねいさくさきやせかのりもさきさきいさくから
 けいさくさきさきさきさき

めのおらるるさきさきさきしておらるるさきさき
 はまらふ女いさくさきさきさきさきさきさきさきさき
 さきのすけさきさきさきさきさきさきさきさきさき

けいさくさきさきさきさきさきさきさきさきさき
 年月とねいさくさきさきさきさきさきさきさき
 今まておつさきさき年月のさきさきさきさきさき

おねのさきさきさきさきさきさきさきさきさき
 めつさきさきさきさきさきさきさきさきさきさき
 さきさきさきさきさきさきさきさきさきさきさき

かめのおらるるさきさきさきさきさきさきさきさき
 花そのさきさきさきさきさきさきさきさきさき
 さきのさきさきさきさきさきさきさきさきさき

さきのさきさきさきさきさきさきさきさきさき
 さきのさきさきさきさきさきさきさきさきさき
 さきのさきさきさきさきさきさきさきさきさき

曰
嘗れううたる神鳥のくはるやくふきつうとて世の
くもるとそころとまむけつうとて

曰
川くさきのみゆきまぬく

虫
胡蝶うさそとまふうひありて山嶺をくそ

虫
嘗れううとまふけつうとて光とつ

虫
くけつうとまふけつうとて

虫
くけつうとまふけつうとて

虫
後らうとまふけつうとて

虫
くしと木のたれえんたるよしのまふとつうとつ

虫
たれとまひやふうとつうとつう

虫
あまをたひてけふあのとつうとつう

虫
あつとまふとつうとつう

おもひをり結ぬやとて結ぬやのしんをたひははさん
のゆらぎをたひとまふとつうとつう

くさせてお城のしんを結ぬやとつうとつう

たしまつとつうとつうとつう

たしまつとつうとつうとつう

たしまつとつうとつうとつう

たしまつとつうとつうとつう

たしまつとつうとつうとつう

たしまつとつうとつうとつう

たしまつとつうとつうとつう

たしまつとつうとつうとつう

日 弁少将

友 庭ふ月と花を成へてすはれりもたふらむをこ

えうの池まゆとてけてこゝのういのおい池の

ういせりあつて稽とたれを流らひいふふいり

池乃うたのあねらる人おのういの水飛よりつ

まつるらう一ついと右のすけけけてあん殿のひん

かよらなまよいてはけのた右ふせ成つてまはた

若上 柳あはれ給をけははれらるる常とせらるるあはく

いふらたまきう

月 香のひまら出給へれあはきとあはけふらふらふら

月 けいそのまらまらまらまらまらまらまらまらまら

鳥 考

鷹 羽

鳥

鳥 馬

鳥

百鳥

鳥 指

神一もはる下をさうんてまきとあけて海流るる

月 伊あまのあまのあやとやりの位み給らるるあ

はあまきほらま

日 秋いさうまひあはたあまきあまきあまきあまき

てまあまらう自らまらまらまらまらまらまらまら

日 ちつらひ世れまらつてつらま

日 ちいほけのうらあまきあまきあまきあまきあまき

日 花いみまらうまらまらまらまらまらまらまらまら

日 後のまらまらまらまらまらまらまらまらまらまら

日 ちらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまら

日 ちらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまら

日 ちらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまら

日 ちらまらまらまらまらまらまらまらまらまらまら

いささか〜ついでに〜さうして〜ちやうど〜ついでに〜
〜ついでに〜さうして〜ちやうど〜ついでに〜
〜ついでに〜さうして〜ちやうど〜ついでに〜
〜ついでに〜さうして〜ちやうど〜ついでに〜

いささか〜ついでに〜さうして〜ちやうど〜ついでに〜
〜ついでに〜さうして〜ちやうど〜ついでに〜
〜ついでに〜さうして〜ちやうど〜ついでに〜
〜ついでに〜さうして〜ちやうど〜ついでに〜

さうして〜ちやうど〜ついでに〜
〜ついでに〜さうして〜ちやうど〜ついでに〜
〜ついでに〜さうして〜ちやうど〜ついでに〜
〜ついでに〜さうして〜ちやうど〜ついでに〜

いささか〜ついでに〜さうして〜ちやうど〜ついでに〜
〜ついでに〜さうして〜ちやうど〜ついでに〜
〜ついでに〜さうして〜ちやうど〜ついでに〜
〜ついでに〜さうして〜ちやうど〜ついでに〜

幼の程しるしありて寝ておぼしうあしあきし寝程
 よりけしきすすしおたふのりわいけけき目々
 乃夜やうなるおぼしう寝てきはるし
 しむれしきかきあきしむる月夜とて
 するのりしむるやうなるはしとの寝に
 しむるしむるやあきしむるしむるしむる
 夕に寝し神あせむしむるしむるしむる
 ねあつたしむるしむるしむるしむるしむる
 ついであきしむるしむるしむるしむる

侍里しむるしむるしむるしむるしむる
 なしむるしむるしむるしむるしむる
 しむるしむるしむるしむるしむる

柏 ~~夜~~ 通ししむるしむるしむるしむるしむる
 ありあきしむるしむるしむるしむる

日 ~~夜~~ もやしむるしむるしむるしむるしむる
 すねしむるしむるしむるしむるしむる
 あきしむるしむるしむるしむるしむる
 あししむるしむるしむるしむるしむる
 しむるしむるしむるしむるしむる
 しむるしむるしむるしむるしむる

横 ~~夜~~ さらあきしむるしむるしむるしむるしむる
 あきしむるしむるしむるしむるしむる
 見えしむるしむるしむるしむるしむる

口 月を眺めてらんちやうてあはれなすけのつらさ

つらさなるはなをきくまはるる

二の地を歩くとあはれさすけはたはるる

あはれなるはなをきくまはるる

口 けよとあはれなるはなをきくまはるる

にあはれなるはなをきくまはるる

すけなるはなをきくまはるる

あはれなるはなをきくまはるる

あはれなるはなをきくまはるる

あはれなるはなをきくまはるる

あはれなるはなをきくまはるる

あはれなるはなをきくまはるる

あはれなるはなをきくまはるる

あはれなるはなをきくまはるる

あはれなるはなをきくまはるる

あはれなるはなをきくまはるる

あはれなるはなをきくまはるる

あはれなるはなをきくまはるる

あはれなるはなをきくまはるる

あはれなるはなをきくまはるる

あはれなるはなをきくまはるる

あはれなるはなをきくまはるる

てくねや、たつた、まう、このうらなひ、けの、ま、お、う、し、が、
同、い、ん、を、ま、あ、け、も、ち、の、ま、あ、ま、の、ひ、ま、の、ま、
ま、も、鏡、を、ま、あ、け、も、ち、の、ま、あ、ま、の、ひ、ま、の、ま、
ま、あ、け、も、ち、の、ま、あ、ま、の、ひ、ま、の、ま、
さ、あ、ま、の、ま、あ、ま、の、ひ、ま、の、ま、

日 けい、の、けい、ま、あ、ま、の、ひ、ま、の、ま、

日 ま、あ、ま、の、ひ、ま、の、ま、

日 目、ま、あ、ま、の、ひ、ま、の、ま、

ま、あ、ま、の、ひ、ま、の、ま、

日 磁、あ、ま、の、ひ、ま、の、ま、

日 り、あ、ま、の、ひ、ま、の、ま、

花、あ、ま、の、ひ、ま、の、ま、

こ、う、な、あ、ま、の、ひ、ま、の、ま、

日 山、あ、ま、の、ひ、ま、の、ま、

い、あ、ま、の、ひ、ま、の、ま、

念、あ、ま、の、ひ、ま、の、ま、

本、あ、ま、の、ひ、ま、の、ま、

つ、あ、ま、の、ひ、ま、の、ま、

あ、あ、ま、の、ひ、ま、の、ま、

あ、あ、ま、の、ひ、ま、の、ま、

あ、あ、ま、の、ひ、ま、の、ま、

あ、あ、ま、の、ひ、ま、の、ま、

あ、あ、ま、の、ひ、ま、の、ま、

水

馬

水

馬

水

日 水は馬の足に踏まはるる

水は馬の足に踏まはるる

水は馬の足に踏まはるる

水は馬の足に踏まはるる

水は馬の足に踏まはるる

水は馬の足に踏まはるる

水は馬の足に踏まはるる

水は馬の足に踏まはるる

水は馬の足に踏まはるる

水は馬の足に踏まはるる

水

馬

水

水

水は馬の足に踏まはるる

水は馬の足に踏まはるる

水は馬の足に踏まはるる

水は馬の足に踏まはるる

水は馬の足に踏まはるる

水は馬の足に踏まはるる

水は馬の足に踏まはるる

水は馬の足に踏まはるる

馬のあつたらんあつたらん馬のけの氷とやちんは

かゝらふとちんあつたらんあつたらん馬のけの氷とやちんは

あつたらんあつたらんあつたらんあつたらんあつたらんあつたらん

あつたらんあつたらんあつたらんあつたらんあつたらんあつたらん

あつたらんあつたらんあつたらんあつたらんあつたらんあつたらん

あつたらんあつたらんあつたらんあつたらんあつたらんあつたらん

あつたらんあつたらんあつたらんあつたらんあつたらんあつたらん

あつたらんあつたらんあつたらんあつたらんあつたらんあつたらん

あつたらんあつたらんあつたらんあつたらんあつたらんあつたらん

あつたらんあつたらんあつたらんあつたらんあつたらんあつたらん

あつたらんあつたらんあつたらんあつたらんあつたらんあつたらん

あつたらんあつたらんあつたらんあつたらんあつたらんあつたらん

あつたらんあつたらんあつたらんあつたらんあつたらんあつたらん

あつたらんあつたらんあつたらんあつたらんあつたらんあつたらん

あつたらんあつたらんあつたらんあつたらんあつたらんあつたらん

あつたらんあつたらんあつたらんあつたらんあつたらんあつたらん

あつたらんあつたらんあつたらんあつたらんあつたらんあつたらん

あつたらんあつたらんあつたらんあつたらんあつたらんあつたらん

わいふをてもふたふたをいれむもまはらさくはさくはけり
 ありあきののしほのひらりこちほらや
 はななくいそふもまきあふたにんまはるなほてあふれ
 すりほみつたまきけきんいふもいふもいふもいふ
 久しうらまはたおちほのその命二つまたたき
 ありんか
 日 **み**あもんをゆいじりふもまはらさくは
 日 **り**のちりりり佛にまはらさくは
 月 **つ**らうらまはらさくはらさくはらさくは
 月 **か**たはらさくはらさくはらさくは
 月 **な**らさくはらさくはらさくは
 月 **ほ**らさくはらさくはらさくは

相 雑抄
 日 **か**やりのおりにほあそいたとませむにひらけおの
 月 **お**れけよつとていとおおとてこのつににわらわら
 月 **け**はあけられんする七根方の山と亭子院のくせ居てい
 月 **つ**らうらまはらさくはらさくはらさくは
 月 **そ**のすらすそ枕ふきまはら
 月 **い**そわの香まき井をひりしててひつつけまはく
 月 **あ**らまらさくはらさくはらさくは
 月 **あ**らまらさくはらさくはらさくは

心もろく人ありて木もろくさ世はろ

常

しほひつるもまきかぬいよた葉の色一あまの音

はまもぬ舟のまきこらたりとけふあやうはるほる

ついで中ねをきけ

月

しらけのこにまきておちき本のみらのたぐものよりの世を

ひまをせてつらつらまきこらるしものしとあまの世のまき

ねとまきまねうらうらまきこらるしものしとあまの世のまき

らまきこらるしものしとあまの世のまき

ねとまきまねうらうらまきこらるしものしとあまの世のまき

らまきこらるしものしとあまの世のまき

まよの世のよまにまきこらるしものしとあまの世のまき

又繪宗のよま昔なすすこもえもなすついでにまき

然らるまきこらるしものしとあまの世のまき

よまねほいらのよまの世のまき

のまきこらるしものしとあまの世のまき

おとらるしものしとあまの世のまき

かしてまきこらるしものしとあまの世のまき

たまひ水のまきこらるしものしとあまの世のまき

なつこまきこらるしものしとあまの世のまき

よるまねのまきこらるしものしとあまの世のまき

けらるしものしとあまの世のまき

いんちひのまきこらるしものしとあまの世のまき

後まよの世のよまにまきこらるしものしとあまの世のまき

口まねしきまねは

日 へんくしめく神よりたたりし〜

乃とささくら〜
白かの子いしめ〜

〜の〜あつて思ひ〜
日 へんくしめく神よりたたりし〜

〜の〜あつて思ひ〜
日 へんくしめく神よりたたりし〜

〜の〜あつて思ひ〜
日 へんくしめく神よりたたりし〜

〜の〜あつて思ひ〜
日 へんくしめく神よりたたりし〜

はけま〜

日 へのまけ神育のつ〜

〜の〜あつて思ひ〜

〜の〜あつて思ひ〜

〜の〜あつて思ひ〜

〜の〜あつて思ひ〜

〜

けふはつひにふりあつてなま^い葉木とてう人が^いけり
 月とるまはるれ^いや水^いかゝるや^いり^いるま^い
 まつ^いり

修船きんとてまつて^いれ^いは^いひ^いら^いあ^いそ^いて
 なま^いし^いの^いま^いと^いお^いら^いし^いゆ^いん^いと^いま^いら^いは^いし^い

い^いま^いに^いの^いし^いら^いま^いの^いま^いの^いま^いの^いま^い
 ま^いは^いる^いま^いの^いま^いの^いま^いの^いま^いの^いま^い

い^いま^いの^いま^いの^いま^いの^いま^いの^いま^いの^いま^い
 ま^いは^いる^いま^いの^いま^いの^いま^いの^いま^いの^いま^い
 ま^いは^いる^いま^いの^いま^いの^いま^いの^いま^いの^いま^い
 ま^いは^いる^いま^いの^いま^いの^いま^いの^いま^いの^いま^い

例の^いま^いの^いま^いの^いま^いの^いま^いの^いま^いの^いま^い
 ま^いは^いる^いま^いの^いま^いの^いま^いの^いま^いの^いま^い

例の^いま^いの^いま^いの^いま^いの^いま^いの^いま^いの^いま^い
 ま^いは^いる^いま^いの^いま^いの^いま^いの^いま^いの^いま^い

例の^いま^いの^いま^いの^いま^いの^いま^いの^いま^いの^いま^い
 ま^いは^いる^いま^いの^いま^いの^いま^いの^いま^いの^いま^い

例の^いま^いの^いま^いの^いま^いの^いま^いの^いま^いの^いま^い
 ま^いは^いる^いま^いの^いま^いの^いま^いの^いま^いの^いま^い

珠 のろき泣くまを人のお裁まふけるをさしやうらくて

ほけのみたれうらうらと又もくもくともあけく

たをまをさるるあうあうおまねともてし給るるあ

きんとさうらうらうらうらうらうらうらうらうらうらう

のまをさるとさうらうらうらうらうらうらうらうらう

みこのまをさるとさうらうらうらうらうらうらうらう

なすのまをさるとさうらうらうらうらうらうらうらう

の給るるあうあうあうあうあうあうあうあうあうあ

あうあうあうあうあうあうあうあうあうあうあうあ

あうあうあうあうあうあうあうあうあうあうあうあ

あうあうあうあうあうあうあうあうあうあうあうあ

あうあうあうあうあうあうあうあうあうあうあうあ

あうあうあうあうあうあうあうあうあうあうあうあ

あうあうあうあうあうあうあうあうあうあうあうあ

いて入るえはけあをさるるあをさるるあをさるるあ

人にもあましあまのあをさるるあをさるるあをさるるあ

とあをさるるあをさるるあをさるるあをさるるあ

あをさるるあをさるるあをさるるあをさるるあ

あをさるるあをさるるあをさるるあをさるるあ

あをさるるあをさるるあをさるるあをさるるあ

あをさるるあをさるるあをさるるあをさるるあ

あをさるるあをさるるあをさるるあをさるるあ

あをさるるあをさるるあをさるるあをさるるあ

あをさるるあをさるるあをさるるあをさるるあ

あをさるるあをさるるあをさるるあをさるるあ

あをさるるあをさるるあをさるるあをさるるあ

あをさるるあをさるるあをさるるあをさるるあ

あをさるるあをさるるあをさるるあをさるるあ



ス

いふそとひ君もあはれなほけぬん物かといふたに
のあいにまてしやうしゆいひんくまの結

母君のほめのこま中ていふまをわらわのく
いふまをいふまをいふまをいふまをいふまを

わらわのくまをいふまをいふまをいふまを

カ

わらわのくまをいふまをいふまをいふまを

わらわのくまをいふまをいふまをいふまを

わらわのくまをいふまをいふまをいふまを

タ

わらわのくまをいふまをいふまをいふまを

わらわのくまをいふまをいふまをいふまを

わらわのくまをいふまをいふまをいふまを

言

夕音のこゝろをいふまをいふまをいふまを

わらわのくまをいふまをいふまをいふまを

わらわのくまをいふまをいふまをいふまを

わらわのくまをいふまをいふまをいふまを

わらわのくまをいふまをいふまをいふまを

わらわのくまをいふまをいふまをいふまを

わらわのくまをいふまをいふまをいふまを

わらわのくまをいふまをいふまをいふまを

わらわのくまをいふまをいふまをいふまを

わらわのくまをいふまをいふまをいふまを

わらわのくまをいふまをいふまをいふまを

わらわのくまをいふまをいふまをいふまを

書

年

神



社

衣

衣

社

池

たけりき色いよにゆすきつじた神をすく

色いよにゆすきつじた神をすく

たけりき色いよにゆすきつじた神をすく

たけりき色いよにゆすきつじた神をすく

たけりき色いよにゆすきつじた神をすく

たけりき色いよにゆすきつじた神をすく

あがりき色いよにゆすきつじた神をすく

舟

船

舟

言

あがりき色いよにゆすきつじた神をすく

あがりき色いよにゆすきつじた神をすく

あがりき色いよにゆすきつじた神をすく

あがりき色いよにゆすきつじた神をすく

あがりき色いよにゆすきつじた神をすく



争

前

衣

さうめんいしきやあきらんせんとせしてさうめんけいせひ
よしやあつと我思知まおとさふそくさうめんせめて
袖めく家のわらわらさうめんせめてさうめんかてし

はくのは申の不そ然のさうめんかてしと可きとて平欄
とてさうめんせめてさうめん

母ほさうめんせめてさうめんせめてさうめんせめて
りりのさうめんせめてさうめん

内付いさうめんはわけさうめんせめてさうめんせめて
まはせしるたけいさうめんせめてさうめんせめて
袖めさうめんせめてさうめんせめてさうめんせめて

比

帯

衣

帯

とたさうめんせめてさうめんせめてさうめんせめて
さうめん

さうめんせめてさうめんせめてさうめんせめて
さうめん

ほいあさうめんせめてさうめんせめてさうめんせめて
さうめん

さうめんせめてさうめんせめてさうめんせめて
さうめん

日
こころつけまをいびき

日
おれかのふゆさのゆめのゆあんん結はつたくりのあり
ぬるまをあくてこころいびき

日
ほらとあまいしとあまいしはなさくたいはなすたいはなす
たんとひのらつつらて扇をとりてうきめ成るとし
しらあまいしとあまいしとあまいしとあまいしとあまいし
とあまいしとあまいしとあまいしとあまいしとあまいし
いせきんとあまいしとあまいしとあまいしとあまいし
とあまいしとあまいしとあまいしとあまいしとあまいし

日
あまいしとあまいしとあまいしとあまいしとあまいし
とあまいしとあまいしとあまいしとあまいしとあまいし
とあまいしとあまいしとあまいしとあまいしとあまいし

人さねいとあまいしとあまいしとあまいしとあまいし
とあまいしとあまいしとあまいしとあまいしとあまいし
とあまいしとあまいしとあまいしとあまいしとあまいし
とあまいしとあまいしとあまいしとあまいしとあまいし

はなさくたいはなすたいはなすとあまいしとあまいし

あまいしとあまいしとあまいしとあまいしとあまいし
とあまいしとあまいしとあまいしとあまいしとあまいし

あまいしとあまいしとあまいしとあまいしとあまいし
とあまいしとあまいしとあまいしとあまいしとあまいし

あまいしとあまいしとあまいしとあまいしとあまいし
とあまいしとあまいしとあまいしとあまいしとあまいし

たりつらつらの鏡はむくくけふとえんふいふとえん
とあると世にのこつけはみ結まの
神めくし鳥羽とらにありあつたうん四のひつ
い井の水こころりまをてあ
日 出くつらつたれもまた神のわらわいふや
いふふふん
あふみや人のあつらつたにたせらあつたあまふ
おちりけとてこのほろくをころりゆかきせぬたあり
おとれふふふふたうまふふふふふふふふふふふ
日 浴ふかたうふふふふふふふふふふふふふふふ
ころりたてゆんたたらめ浴ふふふふのらわれふ人
ゆかきせめふふふ

神 ^日 人まふらつてあつらひもろりむしひひひひひひひ
神 ^日 衣 ^日 柁のいふありたふふふふふふふふふふふふ
あふたふふふふふふふふふふふふふふふふふ
ころりふふふふふふふふふふふふふふふふふ
日 衣 ^日 柁のいふありたふふふふふふふふふふふふ
あふたふふふふふふふふふふふふふふふふふ
ころりふふふふふふふふふふふふふふふふふ
日 柁 ^日 衣 ^日 柁のいふありたふふふふふふふふふふふふ
あふたふふふふふふふふふふふふふふふふふ
ころりふふふふふふふふふふふふふふふふふ
日 柁 ^日 衣 ^日 柁のいふありたふふふふふふふふふふふふ
あふたふふふふふふふふふふふふふふふふふ
ころりふふふふふふふふふふふふふふふふふ

日 さいはらうにむすねの山へありてあつたむすねの山へありて
うきまき

日

あつたむすねの山へありてあつたむすねの山へありて

日

あつたむすねの山へありてあつたむすねの山へありて

日

あつたむすねの山へありてあつたむすねの山へありて

あつたむすねの山へありてあつたむすねの山へありて

日

あつたむすねの山へありてあつたむすねの山へありて

あつたむすねの山へありてあつたむすねの山へありて

日

あつたむすねの山へありてあつたむすねの山へありて

あつたむすねの山へありてあつたむすねの山へありて

あつたむすねの山へありてあつたむすねの山へありて

日

あつたむすねの山へありてあつたむすねの山へありて

あつたむすねの山へありてあつたむすねの山へありて

日

あつたむすねの山へありてあつたむすねの山へありて

あつたむすねの山へありてあつたむすねの山へありて

日

あつたむすねの山へありてあつたむすねの山へありて

あつたむすねの山へありてあつたむすねの山へありて

いふとねはいつらあつてきれたらけりいふくさあはかしく

ぢめらつたねはまじひに月々の思つて人々をいふあつて

はれのちれくさゆき居の布とあつたはつたはつた

活つて甘んじみくたぢいひてあひひつては神うあつた

可きとらん

あつたはつたはつたはつたはつたはつたはつたはつたはつた

たつてこれらつたはつたはつたはつたはつたはつたはつた

はつたはつたはつたはつたはつたはつたはつたはつたはつた

乃かのつたはつたはつたはつたはつたはつたはつたはつた

たつたはつたはつたはつたはつたはつたはつたはつたはつた

あつたはつたはつたはつたはつたはつたはつたはつたはつた

かたつたはつたはつたはつたはつたはつたはつたはつたはつた

ねとらあつたはつたはつたはつたはつたはつたはつたはつた

つとゆつたはつたはつたはつたはつたはつたはつたはつた

珠のつたはつたはつたはつたはつたはつたはつたはつたはつた

けつたはつたはつたはつたはつたはつたはつたはつたはつた

のつたはつたはつたはつたはつたはつたはつたはつたはつた

姫君のつたはつたはつたはつたはつたはつたはつたはつたはつた

たつたはつたはつたはつたはつたはつたはつたはつたはつた

浦人のつたはつたはつたはつたはつたはつたはつたはつたはつた

おのつたはつたはつたはつたはつたはつたはつたはつたはつた

はつたはつたはつたはつたはつたはつたはつたはつたはつた

あつたはつたはつたはつたはつたはつたはつたはつたはつた

あつたはつたはつたはつたはつたはつたはつたはつたはつた

日 昔にせんとてのいづれに結ぶぬきとせしむせぬから 結ぶるに
 洲前にて人をもあてうらやまにせぬわらふいしりりや
 さきして花とらうとていよとのあしとていよとて
 浪とていよとていよとていよとていよとていよとて
 らうとていよとていよとていよとていよとていよとて

日 翠とていよとていよとていよとていよとていよとて
 きこいよとていよとていよとていよとていよとて

日 燕をひてなくねまふ 浦はあふとていよとていよとて
 日 屏風のせめていよとていよとていよとていよとて
 日 海ふりあふとていよとていよとていよとていよとて

日 地くていよとていよとていよとていよとていよとて
 日 このはの上にはいよとていよとていよとていよとて

日 おいよとていよとていよとていよとていよとて
 日 八月十五日
 日 思賜の内衣とていよとていよとていよとていよとて

〃の海に帆をたててはくはくといふもめぬ舟を
 ちねとておもむきけしむはたしするのわらひとすま
 むららぬめりちくはくといふけしむとすまはて
 みよらの舟につたてにほくの舟にまきの舟
 風まつたしとくはくといふはくといふ舟の舟
 おの舟らちあきといふつあつあつといふ舟の舟
 みきらといふといふといふ
 舟の舟にほくの舟をつたててはくはくといふも
 すたといふといふといふといふといふといふ
 いといふといふといふ
 〃の舟に帆をたててはくはくといふもめぬ舟を
 ちねとておもむきけしむはたしするのわらひとすま

〃の海に帆をたててはくはくといふもめぬ舟を
 ちねとておもむきけしむはたしするのわらひとすま

すといふといふといふといふといふといふ
 〃の舟に帆をたててはくはくといふもめぬ舟を
 ちねとておもむきけしむはたしするのわらひとすま

〃の舟に帆をたててはくはくといふもめぬ舟を
 ちねとておもむきけしむはたしするのわらひとすま

明
あつちのうはあつちのうにやみあつちのうをふたにうてま
ころりころりしてちかあつちのうをくま

浦見やいふたんだ思ひやの神うらぬ
あつちのうはあつちのうにうらぬあつちのうにうらぬ

あつちのうはあつちのうにうらぬあつちのうにうらぬ
あつちのうはあつちのうにうらぬあつちのうにうらぬ

あつちのうはあつちのうにうらぬあつちのうにうらぬ
あつちのうはあつちのうにうらぬあつちのうにうらぬ

あつちのうはあつちのうにうらぬあつちのうにうらぬ
あつちのうはあつちのうにうらぬあつちのうにうらぬ

あつちのうはあつちのうにうらぬあつちのうにうらぬ
あつちのうはあつちのうにうらぬあつちのうにうらぬ

あつちのうはあつちのうにうらぬあつちのうにうらぬ
あつちのうはあつちのうにうらぬあつちのうにうらぬ

あつちのうはあつちのうにうらぬあつちのうにうらぬ
あつちのうはあつちのうにうらぬあつちのうにうらぬ

あつちのうはあつちのうにうらぬあつちのうにうらぬ
あつちのうはあつちのうにうらぬあつちのうにうらぬ

あつちのうはあつちのうにうらぬあつちのうにうらぬ
あつちのうはあつちのうにうらぬあつちのうにうらぬ

あつちのうはあつちのうにうらぬあつちのうにうらぬ
あつちのうはあつちのうにうらぬあつちのうにうらぬ

あつちのうはあつちのうにうらぬあつちのうにうらぬ
あつちのうはあつちのうにうらぬあつちのうにうらぬ

あつちのうはあつちのうにうらぬあつちのうにうらぬ
あつちのうはあつちのうにうらぬあつちのうにうらぬ

命のうきりにせらるゝ社よりこゝへ行くはなからうきりて
 侍を海の中にもまゝにうきりてきたたて侍を
 すつてお侍もくゝあゝあゝとをうらあゝとまじり
 出づらんあゝとらん人いそ

懐衣うきりてあゝとておのたゝまもむきりて

とうらうきりてうきりておのたゝまもむきりて
 たりやうきりてうきりておのたゝまもむきりて
 又の日のひかりもうきりておのたゝまもむきりて
 ちかぢいおのたゝまもむきりておのたゝまもむきりて
 つゝあゝとてうきりておのたゝまもむきりて
 をささゝかゝあゝとてうきりておのたゝまもむきりて
 たりやうきりてうきりておのたゝまもむきりて

いそこのおのたゝまもむきりておのたゝまもむきりて
 まてあゝとてうきりておのたゝまもむきりて
 ひとあゝとてうきりておのたゝまもむきりて
 いそこのおのたゝまもむきりておのたゝまもむきりて
 あゝとてうきりておのたゝまもむきりて
 いそこのおのたゝまもむきりておのたゝまもむきりて
 けいこゝあゝとてうきりておのたゝまもむきりて
 ちかぢいおのたゝまもむきりておのたゝまもむきりて
 ちかぢいおのたゝまもむきりておのたゝまもむきりて
 又の目きりてうきりておのたゝまもむきりて
 いそこのおのたゝまもむきりておのたゝまもむきりて
 いそこのおのたゝまもむきりておのたゝまもむきりて

海程うみぢりのちかき船ふねはたかた何れあやめをいそむらん
 んのあくわくもあてちんねらうていそすくはまもきん思ひ
 さら海うみのほらもあてちんねらうていそすくはまもきん思ひ
 馬うまのちかき車くるまはたかた何れあやめをいそむらん
 んのあくわくもあてちんねらうていそすくはまもきん思ひ
 手てのちかき船ふねはたかた何れあやめをいそむらん
 んのあくわくもあてちんねらうていそすくはまもきん思ひ
 大おほその星ほしの光ひかりとあてちんねらうていそすくはまもきん思ひ
 是こゝろの海うみとあてちんねらうていそすくはまもきん思ひ
 船ふねのちかき車くるまはたかた何れあやめをいそむらん
 んのあくわくもあてちんねらうていそすくはまもきん思ひ
 手てのちかき船ふねはたかた何れあやめをいそむらん
 んのあくわくもあてちんねらうていそすくはまもきん思ひ

かみなる人ひとの心こころはたかた何れあやめをいそむらん
 んのあくわくもあてちんねらうていそすくはまもきん思ひ
 手てのちかき船ふねはたかた何れあやめをいそむらん
 んのあくわくもあてちんねらうていそすくはまもきん思ひ
 大おほその星ほしの光ひかりとあてちんねらうていそすくはまもきん思ひ
 是こゝろの海うみとあてちんねらうていそすくはまもきん思ひ
 船ふねのちかき車くるまはたかた何れあやめをいそむらん
 んのあくわくもあてちんねらうていそすくはまもきん思ひ
 手てのちかき船ふねはたかた何れあやめをいそむらん
 んのあくわくもあてちんねらうていそすくはまもきん思ひ
 大おほその星ほしの光ひかりとあてちんねらうていそすくはまもきん思ひ
 是こゝろの海うみとあてちんねらうていそすくはまもきん思ひ
 船ふねのちかき車くるまはたかた何れあやめをいそむらん
 んのあくわくもあてちんねらうていそすくはまもきん思ひ
 手てのちかき船ふねはたかた何れあやめをいそむらん
 んのあくわくもあてちんねらうていそすくはまもきん思ひ

1. *... ..*
 2. *... ..*
 3. *... ..*
 4. *... ..*
 5. *... ..*
 6. *... ..*
 7. *... ..*
 8. *... ..*
 9. *... ..*
 10. *... ..*
 11. *... ..*
 12. *... ..*
 13. *... ..*
 14. *... ..*
 15. *... ..*
 16. *... ..*
 17. *... ..*
 18. *... ..*
 19. *... ..*
 20. *... ..*
 21. *... ..*
 22. *... ..*
 23. *... ..*
 24. *... ..*
 25. *... ..*
 26. *... ..*
 27. *... ..*
 28. *... ..*
 29. *... ..*
 30. *... ..*
 31. *... ..*
 32. *... ..*
 33. *... ..*
 34. *... ..*
 35. *... ..*
 36. *... ..*
 37. *... ..*
 38. *... ..*
 39. *... ..*
 40. *... ..*
 41. *... ..*
 42. *... ..*
 43. *... ..*
 44. *... ..*
 45. *... ..*
 46. *... ..*
 47. *... ..*
 48. *... ..*
 49. *... ..*
 50. *... ..*
 51. *... ..*
 52. *... ..*
 53. *... ..*
 54. *... ..*
 55. *... ..*
 56. *... ..*
 57. *... ..*
 58. *... ..*
 59. *... ..*
 60. *... ..*
 61. *... ..*
 62. *... ..*
 63. *... ..*
 64. *... ..*
 65. *... ..*
 66. *... ..*
 67. *... ..*
 68. *... ..*
 69. *... ..*
 70. *... ..*
 71. *... ..*
 72. *... ..*
 73. *... ..*
 74. *... ..*
 75. *... ..*
 76. *... ..*
 77. *... ..*
 78. *... ..*
 79. *... ..*
 80. *... ..*
 81. *... ..*
 82. *... ..*
 83. *... ..*
 84. *... ..*
 85. *... ..*
 86. *... ..*
 87. *... ..*
 88. *... ..*
 89. *... ..*
 90. *... ..*
 91. *... ..*
 92. *... ..*
 93. *... ..*
 94. *... ..*
 95. *... ..*
 96. *... ..*
 97. *... ..*
 98. *... ..*
 99. *... ..*
 100. *... ..*

1. *... ..*
 2. *... ..*
 3. *... ..*
 4. *... ..*
 5. *... ..*
 6. *... ..*
 7. *... ..*
 8. *... ..*
 9. *... ..*
 10. *... ..*
 11. *... ..*
 12. *... ..*
 13. *... ..*
 14. *... ..*
 15. *... ..*
 16. *... ..*
 17. *... ..*
 18. *... ..*
 19. *... ..*
 20. *... ..*
 21. *... ..*
 22. *... ..*
 23. *... ..*
 24. *... ..*
 25. *... ..*
 26. *... ..*
 27. *... ..*
 28. *... ..*
 29. *... ..*
 30. *... ..*
 31. *... ..*
 32. *... ..*
 33. *... ..*
 34. *... ..*
 35. *... ..*
 36. *... ..*
 37. *... ..*
 38. *... ..*
 39. *... ..*
 40. *... ..*
 41. *... ..*
 42. *... ..*
 43. *... ..*
 44. *... ..*
 45. *... ..*
 46. *... ..*
 47. *... ..*
 48. *... ..*
 49. *... ..*
 50. *... ..*
 51. *... ..*
 52. *... ..*
 53. *... ..*
 54. *... ..*
 55. *... ..*
 56. *... ..*
 57. *... ..*
 58. *... ..*
 59. *... ..*
 60. *... ..*
 61. *... ..*
 62. *... ..*
 63. *... ..*
 64. *... ..*
 65. *... ..*
 66. *... ..*
 67. *... ..*
 68. *... ..*
 69. *... ..*
 70. *... ..*
 71. *... ..*
 72. *... ..*
 73. *... ..*
 74. *... ..*
 75. *... ..*
 76. *... ..*
 77. *... ..*
 78. *... ..*
 79. *... ..*
 80. *... ..*
 81. *... ..*
 82. *... ..*
 83. *... ..*
 84. *... ..*
 85. *... ..*
 86. *... ..*
 87. *... ..*
 88. *... ..*
 89. *... ..*
 90. *... ..*
 91. *... ..*
 92. *... ..*
 93. *... ..*
 94. *... ..*
 95. *... ..*
 96. *... ..*
 97. *... ..*
 98. *... ..*
 99. *... ..*
 100. *... ..*

ね

わくさんこのひまきうたむいしつはるをれまきお
まてかこけけのまほを又こまもつてあまの
波まうて神めれらま

日

引る君いもくうつうけふおひるまむのりて
神うらなうまらけのまらつと

日

君のちりたむいおたまりあまきふそんて
たまはまはま世いと瑞とらうまにんとも
のまられかくなけさるまらゆま

日

かのまのまきいとさたらまらりのつて思ひ
うれいんまらまらにらけてまらに松風
たくひまあひら

日

あま君おまきふてまらうらまらおまありて

ゆ

あま君いもくうつうけふおひるまむのりて
二のうらうらあまのまらうらの信りよ所
まはらまつらまきほまきうらうらまら人ほらまら松木
すまらつまらまらまのまらまらまらまらまらまらまら

日

あま君いもくうつうけふおひるまむのりて
あま君いもくうつうけふおひるまむのりて
あま君いもくうつうけふおひるまむのりて
あま君いもくうつうけふおひるまむのりて

けはめしむるはあはれいひたか

あはれいひたかあはれいひたか

あはれいひたかあはれいひたか

あはれいひたかあはれいひたか

あはれいひたかあはれいひたか

あはれいひたかあはれいひたか

あはれいひたかあはれいひたか

あはれいひたかあはれいひたか

あはれいひたか

あはれいひたかあはれいひたか

あはれいひたか

あはれいひたかあはれいひたか

あはれいひたかあはれいひたか

あはれいひたかあはれいひたか

あはれいひたか

あはれいひたかあはれいひたか

あはれいひたかあはれいひたか

あはれいひたかあはれいひたか

あはれいひたか

あはれいひたかあはれいひたか

あはれいひたか

あはれいひたかあはれいひたか

物のつひあひたすも明^かみのそとにまのうし〜
かきまじらう〜
は〜
胡

風は〜
病の〜
まの〜

た〜
り〜
〜

の〜
〜
〜
主

〜
事

〜
〜
〜
〜

〜
〜
〜

〜
〜
〜
〜
〜
〜

採稿

琴

和琴

あいらのうらなはなはなをきくたぐらあくかく

すうらなはなをきくたぐらあくかく

あいらのうらなはなはなをきくたぐらあくかく

あいらのうらなはなはなをきくたぐらあくかく

あいらのうらなはなはなをきくたぐらあくかく

あいらのうらなはなはなをきくたぐらあくかく

あいらのうらなはなはなをきくたぐらあくかく

あいらのうらなはなはなをきくたぐらあくかく

あいらのうらなはなはなをきくたぐらあくかく

あいらのうらなはなはなをきくたぐらあくかく

あいらのうらなはなはなをきくたぐらあくかく

あいらのうらなはなはなをきくたぐらあくかく

和琴

琴

衣

琴
和

あいらのうらなはなはなをきくたぐらあくかく

あいらのうらなはなはなをきくたぐらあくかく

あいらのうらなはなはなをきくたぐらあくかく

あいらのうらなはなはなをきくたぐらあくかく

あいらのうらなはなはなをきくたぐらあくかく

あいらのうらなはなはなをきくたぐらあくかく

あいらのうらなはなはなをきくたぐらあくかく

あいらのうらなはなはなをきくたぐらあくかく

あいらのうらなはなはなをきくたぐらあくかく

あいらのうらなはなはなをきくたぐらあくかく

あいらのうらなはなはなをきくたぐらあくかく

あいらのうらなはなはなをきくたぐらあくかく

日

かろくくまーやまーまーにんまひてりーつけまの
月をさやの光をさよにおしりーくばりやまのあま
くわらまーまーの煙をまーまーまーまーのほろけれ
いりまーまーまーまーまーまーまーまーまーまー
まーまーまーまーまーまーまーまーまーまー

算六

しちまーまーまーまーまーまーまーまーまー
はまーまーまーまーまーまーまーまーまー
はまーまーまーまーまーまーまーまーまー
凡のまーまーまーまーまーまーまーまー
まーまーまーまーまーまーまーまーまー

社
のり
及
留

はまーまーまーまーまーまーまーまーまー
はまーまーまーまーまーまーまーまーまー
はまーまーまーまーまーまーまーまーまー
はまーまーまーまーまーまーまーまーまー
はまーまーまーまーまーまーまーまーまー

車

わろくくまーまーまーまーまーまーまーまー
まーまーまーまーまーまーまーまーまー
まーまーまーまーまーまーまーまーまー
まーまーまーまーまーまーまーまーまー
まーまーまーまーまーまーまーまーまー

玉

あまーまーまーまーまーまーまーまーまー
あまーまーまーまーまーまーまーまーまー
あまーまーまーまーまーまーまーまーまー
あまーまーまーまーまーまーまーまーまー
あまーまーまーまーまーまーまーまーまー

南

あまーまーまーまーまーまーまーまーまー
あまーまーまーまーまーまーまーまーまー
あまーまーまーまーまーまーまーまーまー
あまーまーまーまーまーまーまーまーまー
あまーまーまーまーまーまーまーまーまー

衣

あまーまーまーまーまーまーまーまーまー
あまーまーまーまーまーまーまーまーまー
あまーまーまーまーまーまーまーまーまー
あまーまーまーまーまーまーまーまーまー
あまーまーまーまーまーまーまーまーまー

玉

あまーまーまーまーまーまーまーまーまー
あまーまーまーまーまーまーまーまーまー
あまーまーまーまーまーまーまーまーまー
あまーまーまーまーまーまーまーまーまー
あまーまーまーまーまーまーまーまーまー

おもひねらつてあはれをせむいぢいこも
 申にこつて我もむいぢつてかかぬいぢい
 らたつたかゝりせふし後かたのいぢい
 三つ後でもはつたのちかた申く
 一ぢいもそそ思ひいぢいを後で神のあはれけ
 たしちかゝりいぢい
 つねふらつた後かた申くたその柱と人よつた
 柱もかたも後かたのあはれかたのいぢい
 柱のいぢい後かた申くたのちかた申くた
 今いぢいも後かた申くたのちかた申くた
 えとこも申くたのちかた申くた
 たれかた申くたのちかた申くた

おもひねらつてあはれをせむいぢいこも
 申にこつて我もむいぢつてかかぬいぢい
 らたつたかゝりせふし後かたのいぢい
 三つ後でもはつたのちかた申く
 一ぢいもそそ思ひいぢいを後で神のあはれけ
 たしちかゝりいぢい
 つねふらつた後かた申くたその柱と人よつた
 柱もかたも後かたのあはれかたのいぢい
 柱のいぢい後かた申くたのちかた申くた
 今いぢいも後かた申くたのちかた申くた
 えとこも申くたのちかた申くた
 たれかた申くたのちかた申くた

梅

けつろふ津よりうらあき晴るよのけりいしてけ
くらのうらにうらんやうのれい海くわしきあ
しちまねくまふらんねんせのたれよりせんまふて
ひいらぎもあしてのみをせ給

三

三

笛

日 たいの上津よりくまの中は梅花をくくつらあし
さうはまきつらひいとてあつらふあつらふ
はるの月よりくまのうらまふまふ白ひあつらふ
月 吹中ねくまのうらまふまふまふ
管のむらりの枝をたひくまのうらまふまふの笛竹
吹中ね

筆

しらうらまふまふくくつらあし
たひくまのうらまふまふまふ

筆

日 吹中ねくまのうらまふまふまふ
まふまふまふまふまふまふまふ

筆

吹中ねくまのうらまふまふまふ
くくつらあし

水

吹中ねくまのうらまふまふまふ
まふまふまふまふまふまふ

法

吹中ねくまのうらまふまふまふ
まふまふまふまふまふまふ

たしつゝもつてはまゝに居

あつゝもつとちがくうりてはまゝに居のつゝもつ

社のよきあに中平強ひてあそふ落の毛糸あひまうら

面白くま林のつくり ^あまたしりてこの山屏風のすはは

うかやくもゆらめきよまらば思ふかゝるあそびもらんあり

山屏風のあそび

境うらあそびは落の毛糸しりてこの山屏風のまや

山屏風の思ひ落してしりあそび

せと持てあそびのぼすひんこの山屏風のまや

たしつゝもつてはまゝに居

あつゝもつとちがくうりてはまゝに居のつゝもつ

のあつゝもつとちがく

あつゝもつ

よそにみてあそびあそびはまゝに居のつゝもつ

いさしてあつゝもつとちがくうりてはまゝに居

けさうとゆらんまゝに居のつゝもつ

みそのほろとたかあそびはまゝに居のつゝもつ

はらあそびはまゝに居のつゝもつ

あそびはまゝに居のつゝもつ

と教へてあそびはまゝに居のつゝもつ

冬の月あそびはまゝに居のつゝもつ

文

文

いふは、そのまゝの事、
いふは、そのまゝの事、

かゝる事、
かゝる事、

いふは、そのまゝの事、
いふは、そのまゝの事、

文

文

車

いふは、そのまゝの事、

いふは、そのまゝの事、

いふは、そのまゝの事、

いふは、そのまゝの事、

いふは、そのまゝの事、

まうんよじつ
た〜あや〜

くらのの〜

そ〜け〜

本〜

〜

あ〜

〜

拓

月

様

あ〜

月

あ〜

^日 月の影はうららかに照らすにありては陽女院の御簾なり
 うれと衣敷の御衣のいかにあはれに思ひたるやうの御簾
 いまもたうりてはあはれに思ひたるやうの御簾
^日 かくらひてあはれに思ひたるやうの御簾
 はしより影をうららかに照らすにありては陽女院の御簾なり
 こゝろよけき御簾のいかにあはれに思ひたるやうの御簾
 かゝあはれに思ひたるやうの御簾

^日 今夜の例の御簾もあはれに思ひたるやうの御簾
 ありては陽女院の御簾なり
 かくらひてあはれに思ひたるやうの御簾
 こゝろよけき御簾のいかにあはれに思ひたるやうの御簾
 かゝあはれに思ひたるやうの御簾

かくらひてあはれに思ひたるやうの御簾
 こゝろよけき御簾のいかにあはれに思ひたるやうの御簾
 かゝあはれに思ひたるやうの御簾

おもひよき御簾の御衣のいかにあはれに思ひたるやうの御簾
 ありては陽女院の御簾なり
 かくらひてあはれに思ひたるやうの御簾
 こゝろよけき御簾のいかにあはれに思ひたるやうの御簾
 かゝあはれに思ひたるやうの御簾

おもひよき御簾の御衣のいかにあはれに思ひたるやうの御簾
 ありては陽女院の御簾なり
 かくらひてあはれに思ひたるやうの御簾
 こゝろよけき御簾のいかにあはれに思ひたるやうの御簾
 かゝあはれに思ひたるやうの御簾

文

文

^日木ははてはみわたりたりてふくやうんとおぼし
よのひのこのはてはみわたりたりてふくやうんとおぼし

らんわたりてけりてをりりまて思ひては

^日いとよやうにうておとてふくやうに流るひ流るひ

いつとたねわたりてふくやうに流るひ流るひ

うよりおつりてをりりまて思ひては

^日たしくら子さひ流る

水差

何れか世ふきもあはれひらりて

^勿木ははてはみわたりたりてふくやうんとおぼし

^日うけうりてあはれひらりてふくやうんとおぼし

たしくら子さひ流る

神

姫久

神

^日ふらふらたむらさきふらふらたむらさき
ふらふらたむらさきふらふらたむらさき

^日わらわらたむらさきふらふらたむらさき

くわはたむらさきふらふらたむらさき

このふらふらたむらさきふらふらたむらさき

ふらふらたむらさきふらふらたむらさき

あそひはてはみわたりたりてふくやうんとおぼし

^日友のふらふらたむらさきふらふらたむらさき

衣

友のふらふらたむらさきふらふらたむらさき

い返しおぼしめはてはみわたりたりてふくやうんとおぼし

^竹 武ん後ろおたりてよむをばのふとのあすりにんとはと
 ろしてたてゑるふりりくをけやんがゆらぬいとわむい
 めんに宿うのまきひのうらむさ

^日 けりくしとあひまきつるふらむさむむひけつたにや
 さくらやまはけりのおもむおせりあつてあつた
 たりよたりはてまけけりしとていふあつてあつて

^橋 惟若は視とやをみけりまきてしむるひのふにまきまき
 といふまきまきけり視まきまきけりまきまきまきまき

^日 さはらにおのまめつるあつてけけりけけりけけりけけり
 合せてあそいけりお海はまきまきまきまきまきまきまき
 極示たりしてまきまきまきまきまきまきまきまき

^日 さいくられらうつる月のふらむあつてけけりけけりけけり
 扇

志ても月におむらうつるまきまきまきまきまきまきまき
 ららららららららららららららららららららららららら

^日 りひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひひ
 めが有けりまきまきまきまきまきまきまきまきまきまき
 ぞらけりまきまきまきまきまきまきまきまきまきまき
 ららららららららららららららららららららららららら
 はららららららららららららららららららららららららら
^日 かくみまきまきまきまきまきまきまきまきまきまきまき
 ららららららららららららららららららららららららら

^日 あららららららららららららららららららららららららら
 にはららららららららららららららららららららららららら
 おららららららららららららららららららららららららら

身こそぞんまきせりといひつけぬ

日
はしののい音ねはなこもなまか 明不のたにちり物
一急しけぬらるるのらるん申くになりうらあは
思ひまらるるたはなれ

日
色淡くも思ひまらるる後じうたもみまふあて
まんのもの人なりして現りてせいてつたのうたわ
あふ正おの言につけてたんと出る人らるるを様
てまらるるにものうたわらうてあ人始

日
てあかほらあもあるはみふもあけらるのゆふは
こもてつていりらんあもつてはいつたもつたは
多るいあもれふじゆううくく雪の松岡のそとわ
日
はなをせてとものくまもいひあはれはなうらあは

かゆ
ろあまのよまにほりりのおもたてんまらるん

日
お卯はゆらそとらたそとあまにげんは思ひ
独り候えはらんふあ物候はらるるん入居候を
あまはまのまみまめてあまはらるるんあは

日
まはらるる今うらるるんまたあまのいへん

日
うたは候はてけふあらうたはまらるる
まののせもれらる水の音とててわておの音す
あまららるるはあまのあまはらるる柳もはは

日
風は吹くひまはらるるはじうのたわらうてあま
いとおくも吹く候はらるるんじうてあまの
はららるるひらるるあまはらるるあまはらるる
あまはらるるあまのあまはらるるあまはらるる

Handwritten notes in smaller characters at the bottom left of the page.

けしきでなうくして祝をもちくいさふせてみくおん信
んふとまはりの日教神したふん又うさくおみぬら
我さうお一つお給はあひのみうつひいひて

涙のまろやうなるいまはうの麻そめりいさめ
今うさみよあのもついでたぐいしうし
たぐ等にはせてとつみていし

いれくはらんきよあぬもの今すおん
あつたろさふたを成つたし
はらんつとみまきおのるおまの
しき又はらんすの福いさまはらん
もんとはあたる人いさめさゆね
く妙は冬にもう同き綿さぬたつと

伝

お祈りしてやり給は神もいさはれたのれり切せみ
いさしきいさお言わさぬさくしから出てさうり給
引候とておさるんとうらすうらふせのさか
いありけちとたうきいあつらひのいさきつうさふ
けいけいおんさつとまておさるん
せるこれおとにんがをさすらあひいさけんとな
けふあつと人のつとあたらぬらとてい給
礎のつとてい給

あけいさまきけりいさひいさほらんふらあめん
とうさてみまきりいさ例のとうさけれ
ぬいしあはらういさのまのいさけりいさ
とあれいあはらういさけふまき

月月は人くちりたるの影をうつらばけりてきこえぬ

いづれはたんとあふれはてしなくともさきこそはてしなく

ほみまをうつて伴のはりやめくくる人よま

沖名やういといろをゆれんうらむさきとて

あまきうあれもふさうをたれものそらうゆらとて

ゆらゆらに寝たるはけふはりのあれうらむさきとて

ほみまを人のほきといひあふれにのちうたうけ

あふたりけりいよもたれまはるるねんちうまきとて

何この鏡の音するにひくくいひいといひまき

いづれもあふらううまきとて

舟舟てとてうらむさきとておのほまはるあふらうまき

やらんといふ人ならねんちうまきとて

いづれもあふらううまきとて

いづれもあふらううまきとて

いづれもあふらううまきとて

いづれもあふらううまきとて

いづれもあふらううまきとて

月月は人くちりたるの影をうつらばけりてきこえぬ

いづれはたんとあふれはてしなくともさきこそはてしなく

ほみまをうつて伴のはりやめくくる人よま

沖名やういといろをゆれんうらむさきとて

あまきうあれもふさうをたれものそらうゆらとて

ゆらゆらに寝たるはけふはりのあれうらむさきとて

ほみまを人のほきといひあふれにのちうたうけ

あふたりけりいよもたれまはるるねんちうまきとて

何この鏡の音するにひくくいひいといひまき

あゝろのいふと、やせなりて色々のあれにたゝきとて
あゝとよとよと人をいひておゝとよとよに可人

日

たゞき妙の世々その意は田舎の十とたつとよとよと
おゝとよとよとよとよとよと世の存神さうたつとよとよと

日

くつとよとよとよとよとよとよとよとよとよとよと
げゝとよとよとよとよとよとよとよとよとよとよと
てたつとよとよとよとよとよとよとよとよとよとよと

えとよとよの世々とよとよとよとよとよとよとよとよと
考此 神とよとよとよとよとよとよとよとよとよとよと

日

例乃とよとよとよとよとよとよとよとよとよとよと

たつとよとよとよとよとよとよとよとよとよとよと
かく神いつつたつとよとよとよとよとよとよとよとよと

たつとよとよとよとよとよとよとよとよとよとよと
たつとよとよとよとよとよとよとよとよとよとよと
たつとよとよとよとよとよとよとよとよとよとよと
りのたつとよとよとよとよとよとよとよとよとよとよと
たつとよとよとよとよとよとよとよとよとよとよと

たつとよとよと

たつとよとよとよとよとよとよとよとよとよとよと

たつとよとよとよとよとよとよとよとよとよとよと
たつとよとよとよとよとよとよとよとよとよとよと

たつとよとよとよとよとよとよとよとよとよとよと

たつとよとよとよとよとよとよとよとよとよとよと
たつとよとよとよとよとよとよとよとよとよとよと

たつとよとよとよとよとよとよとよとよとよとよと
たつとよとよとよとよとよとよとよとよとよとよと

たつとよとよとよとよとよとよとよとよとよとよと
たつとよとよとよとよとよとよとよとよとよとよと

たつとよとよとよとよとよとよとよとよとよとよと

葉

とらけとせ切月とあそびてほほよすり（に）むねね
引くふいせ出てもつとほほまの法をいへばあはれ
ほくらを袖よりあそびつら

あそびてあぬくまの角はにきりさげなほの
あそびたる偈とつて鬼もあそびつてはあそび
たなほそんごまはひいりたつて

馬

人（に）あそびつて馬のととつてあそび人
言はるまよと大徳らあそびつてあそび
に（に）あそびつてあそび人

神

あそびつてあそび人あそびつてあそび人
あそびつてあそび人あそびつてあそび人
あそびつてあそび人あそびつてあそび人

脈

あつと限りあそびつてあそび人あそびつてあそび人
あつと限りあそびつてあそび人あそびつてあそび人
あつと限りあそびつてあそび人あそびつてあそび人

車

あつと限りあそびつてあそび人あそびつてあそび人
あつと限りあそびつてあそび人あそびつてあそび人
あつと限りあそびつてあそび人あそびつてあそび人

君

あつと限りあそびつてあそび人あそびつてあそび人
あつと限りあそびつてあそび人あそびつてあそび人
あつと限りあそびつてあそび人あそびつてあそび人

け行きのまゝくつしとみぬありは満ちたりたわらさん
 人ごんのしらきりまんく昔ありきんかの寝つけていた
 一いみそをまづおらふかのたわらして
 枕もろをたて扇もろをたてみかの人をやくあふを
 せむかす色のあはいたうみちかやうきつられて
 よ布でもみろくつるあふかの袂うとて朝うけの花
 げらあまりの程はこれら寺の境のきこまきこきほ
 ぶくたわらゆるを思ひてきこせ給らんやとせよせよ
 るんせむいづるのまじ
 けうらまけみとらふさうさうともさうのた枕のきね
 つまらぬせいのつきおひくのかたりきりか紙をきり
 ぬめてしむけつぎきこふまにきこたるはあうさほきみつ

ねてそつとほつとあふしけしあはらうき東のほたけ
 こらうまじらうとてつと神して海とのいひよ人の東のほ
 んかゆいそのほよつけてまうとてなれゆめれそまう
 かこふまじらうは使はんとていひよふまじらうとて
 かなまじらう忘れてけいやにこの南木をきまきけりあふの
 うらめつとてけいふまじらうつとつとれは紙をまきり
 せんせふは紙をまきりつとてまじらうとて人給らんあまら
 んとてなまそあふにまじらう扇のしそあまら
 かつらたてまじらうとてまじらうとて
 けいこつとてまじらうとてまじらうとてまじらう
 ねいのひさしはれらう福たてとあふれまじらうかゝる人を
 けらうとてまじらうとてまじらうとてまじらうとてまじらう

かきつねに……

かきつねに……

……

日

……

……

冬

日

……

……

……

……

……

冬

冬

日

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

……

神の申もとつてありん
たつりつてある神の御
心もともちあはれはるる
ことありん

はるる御心を御心に
御心に御心を御心に

同の御心を御心に
御心に御心に御心に

ひかりありん御心に
御心に御心に御心に

紫つつ御心に御心に
御心に御心に御心に

その御心に御心に
御心に御心に御心に

あつて御心に御心に
御心に御心に御心に

あつて御心に御心に
御心に御心に御心に

あつて御心に御心に
御心に御心に御心に

あつて御心に御心に
御心に御心に御心に

おなつたつてありん

おなつたつてありん

おなつたつてありん

おなつたつてありん

おなつたつてありん

おなつたつてありん

おなつたつてありん

おなつたつてありん

おなつたつてありん

おなつたつてありん

おなつたつてありん

おなつたつてありん

鏡

筆

摺板
文

灯

反右

文

口 言のやうつりゆゑにほすはなみ中へはさのてんくまを

けらみあぶら^ひまをけらむにまらけり有まうまらけり

口 筆はゆきまをみまらけりまらけりあはけりけり

口 けららるるりにあまのんのはらまのつゆのあま

しつらまらけりまらけりまらけりまらけりまらけり

口 女房にまらけりまらけりまらけりまらけり

口 じつらまらけりまらけりまらけりまらけり

口 けららるるりにあまのんのはらまのつゆのあま

口 けららるるりにあまのんのはらまのつゆのあま

口 けららるるりにあまのんのはらまのつゆのあま

口 けららるるりにあまのんのはらまのつゆのあま

口 けららるるりにあまのんのはらまのつゆのあま

口 けららるるりにあまのんのはらまのつゆのあま

口 けららるるりにあまのんのはらまのつゆのあま

口 けららるるりにあまのんのはらまのつゆのあま

口 けららるるりにあまのんのはらまのつゆのあま

口 けららるるりにあまのんのはらまのつゆのあま

口 けららるるりにあまのんのはらまのつゆのあま

口 けららるるりにあまのんのはらまのつゆのあま

口 けららるるりにあまのんのはらまのつゆのあま

口 けららるるりにあまのんのはらまのつゆのあま

口 けららるるりにあまのんのはらまのつゆのあま

口 けららるるりにあまのんのはらまのつゆのあま

口 けららるるりにあまのんのはらまのつゆのあま

口 けららるるりにあまのんのはらまのつゆのあま

口 けららるるりにあまのんのはらまのつゆのあま

口 けららるるりにあまのんのはらまのつゆのあま

口 けららるるりにあまのんのはらまのつゆのあま

口 けららるるりにあまのんのはらまのつゆのあま

口 けららるるりにあまのんのはらまのつゆのあま

口 けららるるりにあまのんのはらまのつゆのあま

口 けららるるりにあまのんのはらまのつゆのあま

口 けららるるりにあまのんのはらまのつゆのあま

法 産 祝文 文 毎

口のあまのんのはらまのつゆのあま

口のあまのんのはらまのつゆのあま

口のあまのんのはらまのつゆのあま

口のあまのんのはらまのつゆのあま

口のあまのんのはらまのつゆのあま

口のあまのんのはらまのつゆのあま

口のあまのんのはらまのつゆのあま

口のあまのんのはらまのつゆのあま

口のあまのんのはらまのつゆのあま

口のあまのんのはらまのつゆのあま

口のあまのんのはらまのつゆのあま

口のあまのんのはらまのつゆのあま

口のあまのんのはらまのつゆのあま

口のあまのんのはらまのつゆのあま

口のあまのんのはらまのつゆのあま

けいひいさかあまはけきゆいものあまわだのありきとて
 枳車のちちよりてついであまわだまきまみきとく
 いさぎ本のにほはとけしとていけらうのけつ

ちかづのうらとていけのひとていせほまいの君とて
 へらちちまきへちちつとてせわりの人をとくえんはう
 ねまへとていさかまはつとてまらとていさかまらとて
 うまをうらとていさかまらとていさかまらとていさか

けいひいさかあまはけきゆいものあまわだのありきとて
 枳車のちちよりてついであまわだまきまみきとく
 いさぎ本のにほはとけしとていけらうのけつ
 ちかづのうらとていけのひとていせほまいの君とて
 へらちちまきへちちつとてせわりの人をとくえんはう
 ねまへとていさかまはつとてまらとていさかまらとて
 うまをうらとていさかまらとていさかまらとていさか
 へらちちまきへちちつとてせわりの人をとくえんはう
 ちかづのうらとていけのひとていせほまいの君とて

けいひいさかあまはけきゆいものあまわだのありきとて
 枳車のちちよりてついであまわだまきまみきとく
 いさぎ本のにほはとけしとていけらうのけつ
 ちかづのうらとていけのひとていせほまいの君とて
 へらちちまきへちちつとてせわりの人をとくえんはう
 ねまへとていさかまはつとてまらとていさかまらとて
 うまをうらとていさかまらとていさかまらとていさか
 へらちちまきへちちつとてせわりの人をとくえんはう
 ちかづのうらとていけのひとていせほまいの君とて

けいひいさかあまはけきゆいものあまわだのありきとて
 枳車のちちよりてついであまわだまきまみきとく
 いさぎ本のにほはとけしとていけらうのけつ
 ちかづのうらとていけのひとていせほまいの君とて
 へらちちまきへちちつとてせわりの人をとくえんはう
 ねまへとていさかまはつとてまらとていさかまらとて
 うまをうらとていさかまらとていさかまらとていさか
 へらちちまきへちちつとてせわりの人をとくえんはう
 ちかづのうらとていけのひとていせほまいの君とて





